

【科目名】	臨床倫理学		【担当教員】	村井 絹子、山村 千絵
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30 (保健室)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。				
本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、医療現場の倫理的課題を取り				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
テキストにそって講義を行います。				
講義を聞き、知識・考えを広め、自分の考えを自由記述でまとめる過程で学びを深めていきます。				
課題は期限内に提出してください。				
試験・課題については、必要に応じて解説を行います。				
【講義概要】				
(目的)				
医療従事者には、一般の人より多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場の倫理的問題を思索し、実践するための知識を深め、自己啓発に向けて修養することを目的としています。加えて、将来臨床現場に従事する学生として、生命倫理を中心に、現代医療をめぐる倫理的諸問題の題材を多角的に捉え、視野を広げる機会となることを目指します。当該科目と学位授与方針との関連性：A-1				
(方法)				
主として教科書を中心に、パワーポイントを使用して講義を行います。				
内容については、指定教科書に準じます。				
関連資料がある場合は配布します。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、医療に関わる専門職としての倫理観を深め、「なぜ今、医療において倫理が問われるのか」「患者の人権や自律の尊重がなぜ必要なのか」について理解する。</li> <li>・一人ひとりが異なる価値観を有する他者の気持ちを理解し、柔軟な思考と態度を養い「医の倫理」の知識を修得する。</li> </ul>				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療における原理・原則について説明できる</li> <li>・「倫理とはなにか」自分の言葉で述べることができる</li> <li>・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べるができる</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書：伏木信次、生命倫理と医療倫理第4版、金芳堂出版、2020年、¥2,700 (税別)				
【参考書】				
雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理 河出書房新社				
伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会				
塩野寛他著、生命倫理への招待改訂6版 南山堂				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は評価に含みません。</li> <li>・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。</li> <li>・成績評価は、期末試験及び課題レポート点により総合的に評価する。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	オリエンテーション 医療の歴史と倫理問題の提起 倫理的問題の具体的現状	講義	予習：教科書P. 7～P. 13 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
3. 4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パターナリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	講義	予習：教科書P. 23～P. 35 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
5. 6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報保護と倫理	講義	予習：教科書P. 202～P. 229 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
7. 8	生命誕生のあらし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	講義	予習：教科書P. 62～101 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
9. 10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	講義	予習：教科書P. 131～P. 143 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
11. 12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ・ケア（終末期医療） 安楽死と尊厳死	講義	予習：教科書P. 104～P. 115 教科書P. 116～P. 130 教科書P. 144～P. 145 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
13. 14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	講義	予習：教科書P. 154～P. 165 教科書P. 230～P. 240 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる	講義	予習：身近な臨床倫理問題を調べる 復習：課題レポート（まとめ）	30分

<b>【科目名】</b>	日本語表現法		<b>【担当教員】</b>	上松 恵理子
<b>【授業区分】</b>	教養分野(人文科学)	<b>【授業コード】</b>	1-01-0010-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 随時メールにて対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2				
(方法)				
基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代にあった表現方法を学習する。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する</li> <li>・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる</li> <li>・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する</li> </ul>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる</li> <li>・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる</li> <li>・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる</li> </ul>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）				
<b>【参考書】</b>				
講義内で適宜資料を指示する				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価 指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンライ ンの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法についてどのような方法でまとめ、どう考察するのか	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方1 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方2 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	レポートの書き方3 正しい日本語を使った発表の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	インターネットにおける日本語表現とスキル	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

【科目名】	心理学概論 I		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0036-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。</p> <p>※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職すべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思ます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。</p> <p>他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。</p> <p>②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。</p> <p>③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。</p> <p>④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。</p> <p>講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。</p> <p>欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。</p> <p>授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。</p> <p>理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。</p> <p>人の心のはたらきはどのようにして客観的に把握されるのかを知る。</p> <p>心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。</p> <p>心理学の学びから、将来の理学療法士として、患者様やご家族様等との適切なコミュニケーション能力を培う。</p> <p>保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームの中でのコミュニケーション能力を高める。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。</p> <p>対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。</p> <p>各領域における心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。</p> <p>「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”(感情や態度)を自己コントロールできる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2, 2,900円+税, ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】				
<p>フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」 金剛出版, 2015/9/25, 24,200円(税込)</p> <p>梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～」サイエンス社, 1992年, 1,942円+税</p> <p>繁柘算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は評価に含まない。</li> <li>・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</li> <li>・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第1章「知覚」 知覚成立の基礎 ・感覚器官と適刺激 ・刺激の閾値 ・物理的環境と心理的環境	講義	指定教科書p. 2-5 ・知覚はどのように成り立っている のかを知る	15
2	第1章「知覚」 知覚の体制化 ・図と地 ・恒常現象	講義 一部演習	指定教科書p. 5-9 ・知覚成立の特徴を知る	15
3	第1章「知覚」 知覚の諸相 ・錯視 ・時間・空間・運動の知覚	講義	指定教科書p. 10-12 ・自己や環境を知覚する際の多感覚 相互作用を理解する	15
4	第1章「知覚」 社会的知覚 ・欲求と価値 ・知覚的防衛 ・臨床応用	講義 一部演習	指定教科書p. 12-14 ・注意や欲求が知覚に及ぼす影響を 理解する	15
5	第2章「学習・記憶」 ・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・条件づけの臨床応用	講義	指定教科書p. 15-19 ・学習の定義を説明できる ・学習成立の主なメカニズムを学ぶ	15
6	第2章「学習・記憶」 ・観察学習 ・自己効力感	講義 一部演習	指定教科書p. 19-20 ・社会的行動における観察学習の重 要性を理解する	15
7	第2章「記憶・記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	指定教科書p. 20-23 ・記憶のモデル構造やその過程を理 解する ・記憶の測定法を学ぶ	15
8	第2章「記憶・記憶」 ・忘却のメカニズム ・記憶の歪み ・記憶障害の病理	講義 一部演習	指定教科書p. 24-26 ・日常場面における記憶現象を知る ・忘却の要因を学ぶ ・記憶の歪みや病理を理解できる	15

9	第3章「動機づけ」 ・動機づけの定義 ・動機づけの分類と機能	講義	指定教科書p. 27-34 ・動機づけの分類とメカニズムを学ぶ ・動機づけの適応的機能が理解できる	15
10	第3章「動機づけ」 ・欲求 ・自己効力感/学習性無気力 ・セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	指定教科書p34-38 ・やる気の生起または消失の要因を知る ・セルフエフィカシーを説明できる	15
11	第4章「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義	指定教科書p. 39-45 ・感情発生の機序を知る ・感情の種類を知る ・感情の適応的機能を理解する	15
12	第4章「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス ・ストレス・コーピング	講義 一部演習	指定教科書p. 45-52 ・欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。 ・ストレスとその対処法を理解できる	15
13	第12章「精神的健康」 ・WHO「健康」の定義 ・心の健康を測定する ・抑うつ/不安/ストレス尺度	講義 一部演習	指定教科書p. 150-153 ・心が健康な状態を理解する ・心の健康が損なわれているサイン(兆候)を知る	15
14	第14章_4「健康心理学」 ・タイプA行動と特定疾患/寿命への影響 ・行動特性の修正(認知行動療法等)	講義 一部演習	指定教科書p. 188, p. 202	15
15	まとめ ・1~14コマ目までの重要事項の確認 ・傾聴と共感	講義	・人の心の基本的な仕組みとその働き、心の不適応状態を説明できる。 ・「優しい目、大きな耳、小さい口、広いところ」を身につける。	15



【科目名】	心理学概論Ⅱ		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0037-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。</p> <p>※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職すべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思えます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。</p> <p>他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。</p> <p>②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。</p> <p>③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。</p> <p>④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。</p> <p>講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。</p> <p>欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。</p> <p>授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。</p> <p>理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。</p> <p>人の心のはたらきはどのようにして客観的に把握されるのかを知る。</p> <p>心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。</p> <p>心理学の学びから、将来の理学療法士として、患者様やご家族様等との適切なコミュニケーション能力を培う。</p> <p>保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームの中でのコミュニケーション能力を高める。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。</p> <p>心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。</p> <p>「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”(感情や態度)を自己コントロールできる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2, 2,900円+税, ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】				
<p>フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳) 「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版, 2015/9/25, 24,200円(税込)</p> <p>梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社, 1992年, 1,942円+税</p> <p>繁枅算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は評価に含まない。</li> <li>・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</li> <li>・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第5章「パーソナリティ」(1) ・パーソナリティの記述	講義	指定教科書p. 54-59 ・パーソナリティの特徴とその記述 法を知る ・パーソナリティの主な分類法を学 ぶ	15
2	第5章「パーソナリティ」(2) ・パーソナリティの測定法	講義	指定教科書p. 60-63 ・パーソナリティはどのように測定 されるのかを学ぶ	15
3	第5章「パーソナリティ」(3) ・演習：性格検査	講義 一部演習	指定教科書p. 60-61 ・パーソナリティを適切に測定し、 評価できる	30
4	第5章「パーソナリティ」(4) ・パーソナリティの異常と障害	講義 一部演習	指定教科書p. 63-65 ・パーソナリティの障害を説明でき る	15
5	第6章「知能」(1) ・知能の定義 ・知能の構造	講義	指定教科書p. 68-71 ・知能検査開発の歴史的経緯を知る ・知能の定義を説明できる ・知能の構造を知る	15
6	第6章「知能」(2) ・知能の測定 ・知的能力障害(知的発達症)	講義	指定教科書p. 71-79 ・知能はどのように測定されるのか を学ぶ ・知的発達症の定義(基準)と適切 な対応法を学ぶ	15
7	第7章「思考」(1) ・思考とは? ・概念 ・問題解決	講義	指定教科書p. 82-86 ・「考えるとは?」を説明できる ・思考と言語の関係を理解できる ・問題を解決する方略(思考)を知 る	15
8	第7章「思考」(2) ・推論 ・創造性 ・創造的思考力の開発	講義 一部演習	指定教科書p. 86-92 ・推論とその誤りを知る ・新たなものを創り出すプロセスを 学ぶ ・創造性を開発する手法を理解する	15

9	第10章「人間関係」(1) ・対人認知 ・帰属理論	講義	指定教科書p. 126-131 ・他者の印象形成について学ぶ ・自身や他者の言動の原因のとりえ方について知る	15
10	第10章「人間関係」(2) ・対人魅力	講義 一部演習	指定教科書p. 131-134 ・人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学ぶ	15
11	第11章「集団」(1) ・集団の心理 ・社会的影響	講義	指定教科書p. 136-143 ・集団の特徴と分類を学ぶ ・他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる	15
12	第11章「集団」(2) ・態度 ・流行と流言	講義	指定教科書p. 143-148 ・態度の適応的機能を知る ・態度の変容を促す手法を学ぶ ・個人の欲求と社会現象との相互関係について理解する	15
13	第14章「心理学の応用分野」(1) 「災害心理学」より ・被災者の心理状態 ・ASD/PTSDへの対応	講義	指定教科書p. 194-196 ・被災者への適切な対応、心のケアを学ぶ	15
14	第14章「心理学の応用分野」(2) 「産業・組織心理学」より ・ライフ・キャリア・レインボー	講義 一部演習	指定教科書p. 196-197 ・各自のキャリア・レインボーを描く ・職業アイデンティティの確立	30
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・質疑応答	講義		15

<b>【科目名】</b>	医療行動科学 I		<b>【担当教員】</b>	加藤 真由美
<b>【授業区分】</b>	教養分野(人文科学)	<b>【授業コード】</b>	1-01-0030-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	ma. kato@nur05. onmicrosoft. com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 11:00~13:30(水~金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 *1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
受講者は、医療行動科学 I と医療行動科学 II を併せて履修登録すること。 教科書代わりとなる資料を配布する (Teams) 。 小テストおよびレポートの結果については、Teamsを通してフィードバックする。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性; 0-2				
(方法)				
主として配布資料を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
教科書代わりとなる資料を配布する (Teams) 。				
<b>【参考書】</b>				
山田富美雄 (編)、シリーズ医療の行動科学 I、北大路書房、2015年、¥1,900 (税別) 津田彰 (編)、シリーズ医療の行動科学 II、北大路書房、2002年、¥2,400 (税別)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 期末試験を実施する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			21	79					100
評価 指標	取り込む力・知識		21	60					81
	思考・推論・創造の力			19					19
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅰ」まとめ	講義	講義ノートの完成	90



<b>【科目名】</b>	医療行動科学Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	加藤 真由美
<b>【授業区分】</b>	教養分野(人文科学)	<b>【授業コード】</b>	1-01-0035-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	ma. kato@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 11:00~13:30(水~金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし。 *1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。 教科書代わりとなる資料を配布する(Teams)。 小テストやレポートの結果は、Teamsを通してフィードバックする。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性; 0-2				
(方法)				
主として配布資料(Teams)を使用して講義を行います。必要に応じてグループ討論を取り入れます。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
教科書代わりとなる資料を配布する(Teams)。				
<b>【参考書】</b>				
山田富美雄(編)、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900(税別) 津田彰(編)、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400(税別)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 期末試験を実施する。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力	10	10						20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅱ」まとめ	講義		45



<b>【科目名】</b>	社会と健康 I		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	教養分野(社会科学)	<b>【授業コード】</b>	1-02-0000-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、生活習慣病の病態、予防、介入法について講義します。また、健康を維持・増進するために必要なスキルや理論について解説します。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>本科目では、生活習慣病をはじめとした具体的な疾患の病態や予防法に加え、健康を維持・増進するためのさまざまな概念を取り上げて、事例を交えながら解説します。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>現代病ともいわれる生活習慣病について、発症のメカニズムや予防法、治療的介入法について理解することを目的とする。また、健康を維持・増進するための概念やスキルについて理解することを目的とする。  ※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。授業回によっては事例検討を組み入れて進行する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>現代社会に蔓延する生活習慣病の実態について理解できる。  健康を維持・増進するために必要な個人々の能力について理解できる。</p>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<p>生活習慣病の成り立ちやその予防、治療的介入法について説明できる。  健康を維持・増進するための種々の概念、スキルについて説明できる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<p>授業資料を毎回配布します。</p>				
<b>【参考書】</b>				
<p>日本健康心理学会 (編)／健康心理学事典／丸善出版／2019年／22,000円</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</li> <li>・小テストと定期試験を実施する。</li> <li>・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。</li> <li>・出席点は評価に含みません。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション ストレスマネジメント	講義	講義プリントの復習 ストレスに曝された時のセルフコン trolについて理解する。	120
3・4	燃え尽き症候群 (バーンアウト)	講義	講義プリントの復習 対人援助職によく起こり得る精神衛 生上の問題とそれに対する対処につ いて理解する	120
5・6	生活習慣病 (1) 糖尿病	講義	講義プリントの復習 糖尿病の発症のメカニズムと糖尿者 の心理行動的問題について理解する	120
7・8	生活習慣病 (2) 肥満症	講義	講義プリントの復習 肥満症の病態と肥満者の心理行動的 問題について理解する	120
9・10	生活習慣病 (3) COPD	講義	講義プリントの復習 たばこ病ともいわれるCOPDの病態と 治療的介入としての呼吸リハビリ テーションについて理解する	120
11・1 2	ヘルスコミュニケーション	講義	講義プリントの復習 健康増進に有用な医療者-患者間のコ ミュニケーションのあり方について 理解する	120
13・1 4	ヘルスリテラシー	講義	講義プリントの復習 健康情報を正しく入手してQOLの向上 に活かすためのスキルについて理解 する	120
15	まとめ	講義		120

【科目名】	社会と健康Ⅱ		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0005-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com (藤本)、 hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川)
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
医療者として、健康に対する意識を高める科目です。 社会と健康Ⅰを受講していること。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
この科目は、実務経験者対応科目である。 レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。課題の提出期限は守ってください。 *当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 *当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1, 2、O-1, 2、R-1, 2				
【講義概要】				
(目的)				
人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。				
(方法)				
社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。				
【一般教育目標(GIO)】				
・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。				
【行動目標(SB0)】				
・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を必要に応じて配布				
【参考書】				
資料を必要に応じて配布				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う 出席点は評価に含まない				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	オリエンテーション 認知症予防の施策	講義(対面)・ 藤本	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
3, 4	認知症養成サポーター(1) 認知症サポーター養成講座の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
5, 6	認知症養成サポーター(2) 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
7	認知症の方への対応方法(1) 「二本の傘」の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
8, 9	認知症の方への対応方法(2)	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
10, 11	高齢者の社会参加と生き甲斐について	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
12, 13	認知症カフェを通しての具体的な方法(1) 本学のカフェの紹介	講義(映像視聴)・長谷川	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分
14, 15	認知症カフェを通しての具体的な支援方法(2) 課題	課題	講義内容に関することについて、予習・復習を行っておくこと	30分

【科目名】	統計学 I		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
高校数学の基礎知識(Σの意味など)を有していることが望ましい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目では講義に加えて演習を取り入れて統計学の実際を学びます。種々の統計値の計算において電卓を使ってその算出方法を練習します。演習を通して統計学的な数値がどのようなプロセスで算出されているのか理解を深めます。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。				
【講義概要】				
(目的)				
保健医療分野において求められる統計学的な考え方や基礎的な統計学的手法を理解することを目的とする。 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2				
(方法)				
統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。				
【一般教育目標(GIO)】				
統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。				
【行動目標(SB0)】				
変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析、さらに推測統計の基礎について説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
毎回の授業で資料を配布します。				
【参考書】				
吉田(著) 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本, 北大路書房, 2018年, ¥2,750				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 保健医療領域の学びに統計学が何故必要なのか	講義	保健医療領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3・4	種々の変数について	講義・演習	種々の変数の違いを説明できる	120
5・6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7・8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9・10	散布度(分散と標準偏差)	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11・12	共分散と相関(1)	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13・14	共分散と相関(2)	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15・16	統計学的仮説検定とは(1)	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	120

17・18	統計的仮説検定とは(2)	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	120
19・20	t検定(1)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
21・22	t検定(2)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
23・24	t検定(3)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120
25・26	t検定(4)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120
27・28	t検定の演習	講義・演習	対応のないt検定、対応のあるt検定について、実際に演習に取り組んで原理を理解できる。	120
29・30	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

<b>【科目名】</b>	基礎生命科学		<b>【担当教員】</b>	平田 恒彦
<b>【授業区分】</b>	教養分野(自然科学)	<b>【授業コード】</b>	1-03-0010-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 来校時に対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。          高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。          教師と学生との対話を心掛ける。          講義中に試験問題等を提供する。          試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。          試験後、回答例を示します。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。          当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>世間一般で話題となっている「生命(いのち)＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。</p>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<p>「生命(いのち)＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<p>特に使用せずプリントを提供する。</p>				
<b>【参考書】</b>				
<p>高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。          必要な場合にその都度紹介する。</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。          成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。</p>				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物〇〇・・・」の高校での学習の有無についてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命(いのち) =生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の(化学)反応(系) ～ ① 加水分解・酸化還元・酸と塩基  からだの中の(化学)反応(系) ～ ② 酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応…そして、生活空間=環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環 ～ ① 体液 循環 ～ ② 気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン…そして、生活空間=環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

<b>【科目名】</b>	医生物科学 I		<b>【担当教員】</b>	平田 恒彦
<b>【授業区分】</b>	教養分野(自然科学)	<b>【授業コード】</b>	1-03-0015-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 来校時に対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 高校等で「生物基礎」を選択履修したのとして講義を執り行う。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。 試験後回答例を提示します。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) リハビリテーションという現実直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。				
<b>【一般教育目標(GI0)】</b>				
常識程度の医生物科学(生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学)を語れるようになること。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
基礎医学及び医療に関する昨今話題をまとめ、語れるようになること。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
平田恒彦著「人間・生き物科学」、考古堂、2012年、¥1,980(税込)				
<b>【参考書】</b>				
高校の教科書・参考書、新聞 必要な場合にその都度紹介する。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	生物(学)の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3-4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5-6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7-8	化石の世界	同上	同上	同上
9-10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11-12	クスターの世界	同上	同上	同上
13-14	DNAとは	同上	同上	同上
15	万能細胞～ヒトのiPS細胞～	同上	同上	同上
16	試験			

<b>【科目名】</b>	人間支援科学 I		<b>【担当教員】</b>	加藤 真由美
<b>【授業区分】</b>	教養分野(自然科学)	<b>【授業コード】</b>	1-03-0025-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	ma. kato@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 11:00~13:30(水~金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 対面講義となる。授業では、演習を含む。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) 多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労り支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に付けていくことを目的とする。 当該科目学位授与方針等との関連性 ; R-1、O-1、A-1、A-2				
(方法) 学期末には課題レポートの提出を求める。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。 社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
必要に応じて資料を配布する。				
<b>【参考書】</b>				
必要に応じて資料を配布する。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。授業内また授業後に実施する小テスト、課題、試験、実技により評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80		20			100
評価 指標	取り込む力・知識			40		10			50
	思考・推論・創造の力			40		10			50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	コミュニケーションの構成要素	講義	配布資料を読む	240
3. 4	言語・非言語コミュニケーション	講義	配布資料を読む	240
5. 6	コミュニケーションスキル：自己を知る	講義・演習	配布資料を読む	240
7. 8	コミュニケーションスキル：自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	配布資料を読む	240
9. 10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(1)：聴く力	講義・演習	配布資料を読む	240
11. 12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(2)：共感する力	講義・演習	配布資料を読む	240
13. 14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(3)：伝える力	講義・演習	配布資料を読む	240
15	まとめ・レポート試験	講義	全配布資料を読む	240

<b>【科目名】</b>	人間支援科学Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	丁子 雄希
<b>【授業区分】</b>	教養分野(自然科学)	<b>【授業コード】</b>	1-03-0000-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは、他に支障のない限り返却します。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) 人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。				
(方法) 自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義する。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 生活に不都合を感じている方にとって、生活支援に役立つ「モノ」とは何かについて理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b> 各生活場面における、福祉用具、自助具について説明できる。 またその効能について説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 特になし				
<b>【参考書】</b> 特になし				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	生活支援とは何か 生活分類について	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
3、4	生活支援の視点 FIMを用いて	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
5、6	ADL①に役立つモノについて 食事支援	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
7、8	ADL②に役立つモノについて 腰部・股関節疾患の事例を通して	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
9、10	移動に役立つモノについて 車椅子	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
11、12	高次脳機能障害者に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
13、14	運転支援に役立つモノについて 連携シートの活用事例を通して	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
15	発達障害児に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義	該当箇所の復習を行うこと。	30

<b>【科目名】</b>	物理学 I		<b>【担当教員】</b>	藤本 聡
<b>【授業区分】</b>	教養分野(自然科学)	<b>【授業コード】</b>	1-03-0035-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。</li> </ul>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。</li> <li>・試験・レポートは他に支障のない限り返却し、必要に応じて解説・フィードバックを行います。</li> <li>・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。</li> <li>・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。</li> </ul>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。</li> <li>・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。</li> <li>・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。</li> <li>・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2</li> </ul>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。</li> <li>・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。</li> </ul>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。</li> <li>・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。</li> </ul>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年。¥2800				
<b>【参考書】</b>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は評価に含みません。</li> <li>・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。</li> <li>・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。</li> </ul>				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80					20		100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学①	講義(対面)・ 演習	予習:教科書を読んでおく。 復習:演習した内容を復習	60
3, 4	物理学を学ぶのに必要な数学②	講義(対面)・ 演習	予習:教科書を読んでおく。 復習:演習した内容を復習	60
5, 6	物理学を学ぶのに必要な数学③ なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義(映像視 聴)・演習	復習:演習した内容を復習 予習:教科書1-12pを読んでおく	60
7, 8	テコの原理と第一のテコ	講義(映像視 聴)・演習	復習:演習した内容を復習 予習:教科書13-19pを読んでおく	60
9, 10	物理学を学ぶのに必要な数学のまとめ演習 第2のテコ・第3のテコ	講義(映像視 聴)・演習	復習:演習した内容を復習 予習:教科書21-p25を読んでおく	60
11, 12	輪じく・滑車・歯車	講義(映像視 聴)・演習	復習:演習した内容を復習 予習:教科書27-p33を読んでおく	60
13, 14	まとめ演習	講義(映像視 聴)・演習	予習:教科書を読んでおく。 復習:演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	演習	予習:教科書を読んでおく。 復習:まとめ演習を復習	60



<b>【科目名】</b>	物理学Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	藤本 聡
<b>【授業区分】</b>	教養分野(自然科学)	<b>【授業コード】</b>	1-03-0040-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。この科目は実務経験者対応科目である。 ・試験・レポートは他に支障のない限り返却し、必要に応じて解説・フィードバックを行います。 ・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。 課題は、必ず指定した日時までに提出してください。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2				
(方法) 教科書と配布資料などによる講義（映像配信）と演習を行う。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b> 学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年。¥2800				
<b>【参考書】</b>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	物理Ⅰ 期末試験の解説 生体の中のテコ①	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書37-40pを読んでおく	60
3, 4	生体の中のテコ②	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書41-44pを読んでおく	60
5, 6	下肢に存在するテコ	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書47-50pを読んでおく	60
7, 8	作用・反作用, 力の分解, 斜面, 振り子, 摩擦力	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書51-58pを読んでおく	60
9, 10	物理学Ⅱのまとめ演習	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60
11, 12	物理学Ⅱのまとめ演習の解説 物理学Ⅱの小テスト	演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60
13, 14	物理Ⅱの小テストの解説 物理ⅠとⅡの総まとめ演習	演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60
15	総まとめ演習の解説	演習	復習: 授業の内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60



<b>【科目名】</b>	レクリエーション		<b>【担当教員】</b>	上松 恵理子
<b>【授業区分】</b>	教養分野(体育関係学)	<b>【授業コード】</b>	1-04-0000-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 授業終了後、随時メールで応じます
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。</li> <li>・この科目では、楽しさをおとして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。</li> </ul>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。</li> <li>・実技試験は、グループで行います。授業を通して学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、この授業の基礎的な内容の確認を行います。</li> </ul>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等でチームで行う仕事に活かせる力をつける。</li> <li>・児童から高齢者まで幅広い対象者にして実技を通じて目的に応じた適応力を身につける。</li> </ul>				
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。</li> <li>・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。</li> </ul>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場の仕事の活動につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。</li> </ul>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
1) レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。2) レクリエーションの機能・効能について説明できる。3) 幅広い対象者に応じたレクリエーションの企画を立てることができる。4) レクリエーション活動実習をおして実践ができる。5) レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明できる。6) レクリエーションの特性を踏まえた計画を立て、指導ができる。8) レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
資料は授業時に提示する				
<b>【参考書】</b>				
無し				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験（筆記試験30%、レポート50%、実技20%）で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	0	50	0	20	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	30	0	0	0	0	0	0	30
	思考・推論・創造の力	0	0	50	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	20	0	0	20
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション レクリエーションとは何か レクリエーション科目の授業の説明	講義、	予習：これまで経験したレクリエーションについての感想を考える 復習：授業の資料で指示 次の時間の予習も授業の資料で指示	30
3・4	レクリエーションの課題とポイント グループでオリジナルの作戦の立案と実践	講義、実技	授業の資料にて指示	30
5・6	自らの動きの映像を題材にポイントを学ぶ チームの改善点を議論し、作戦を修正する 修正した作戦で再度行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
7・8	フラッグフットボールのルールを変更し、変更に対応した作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する ルール変更したゲームを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
9・10	映像を元に変更したルールの対応 グループで作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する 修正した作戦でレクリエーションを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
11	これまで経験したレクリエーションの特徴を踏まえ、 グループ別に内容を企画する	講義、実習	授業の資料にて指示	30
12・13・14	それぞれのグループが企画した内容でレクリエーション大会を実施する	実技	授業の資料にて指示	30
15	レクリエーション大会の評価と各大会の実施報告書の作成	講義、実習	授業の資料にて指示	30





<b>【科目名】</b>	スポーツ実践		<b>【担当教員】</b>	栗生田 博子、島田 英宏
<b>【授業区分】</b>	教養分野(体育関係学)	<b>【授業コード】</b>	1-04-0125-0-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	学務課に連絡してください
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15 コマ	(オフィスアワー) 学務課に連絡してください
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容、スケジュール詳細などは初回ガイダンスにて周知します。</li> <li>・ 内容やスケジュールが変更となる場合があります。その際は大学ポータルサイト等を通じて連絡します。</li> <li>・ 実技はグループに分けて実施します。</li> </ul> <p>*この科目は実務経験を有する教員が担当します。地域における身体活動の普及に従事してきた経験から、スポーツ実践活動に関して講じます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技の際は、スポーツを実施するのに相応しい身だしなみや服装を整え、館内では内履きを必ず着用してください。</li> <li>・ 水分補給の準備やタオル、着替え等を持参し、各自の体調管理、安全管理に配慮してください。</li> </ul>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な運動やスポーツを経験し、健康や身体活動に関する知識や相互理解を深める。</li> </ul> <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域における様々な運動やスポーツ活動について講義から学び、また実践することで、健康や障害について考える。</li> </ul>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体活動を通じ、健康の保持・増進および障害に対する知識や認識を高め、その活動に対する理解を深める。</li> </ul>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康に関する知識を高め、行動することができる。</li> <li>・ 様々な人々が楽しめる運動・スポーツ活動の運営やサポート方法を考え、実践することができる。</li> <li>・ 学習活動を通して、協調性、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション能力を養い、発揮することができる。</li> <li>・ レポートを作成して自己評価を行い、活動を振り返ることができる。</li> </ul>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に指定しない</li> </ul>				
<b>【参考書】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて提示する</li> </ul>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。出席点は評価に含まれません。</li> <li>・ 授業態度、活動内容、レポートを総合的に評価します。</li> <li>・ レポートは返却します。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90			10		100
評価指標	取り込む力・知識			40			5		45
	思考・推論・創造の力			50			5		55
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	ガイダンス, アイスブレイク 新型コロナウイルス感染症対策など	講義・演習	講義内容をまとめる	30
3-4	スポーツ実践活動1	演習	実施内容をまとめる	30
5	地域とスポーツ活動1	講義	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
6-8	スポーツ実践活動2	演習	実施内容をまとめる	30
9	地域とスポーツ活動2	講義	講義内容をもとに自分の考えをまとめる	30
10-12	スポーツ実践活動3	演習	実施内容をまとめる	30
13-15	スポーツ実践活動4	演習	実施内容をまとめる	30

<b>【科目名】</b>	情報処理技法 I		<b>【担当教員】</b>	浅海 岩生、上松 恵理子	
<b>【授業区分】</b>	教養分野(情報)	<b>【授業コード】</b>	1-05-0000-1	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com uematsu@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	30	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時)Teamsにて対応	
<b>【注意事項】</b>					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。</li> <li>・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。</li> <li>・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの)</li> </ul>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。</li> <li>・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。</li> <li>・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。</li> </ul>					
<b>【講義概要】</b>					
(目的)					
<p>情報処理技法Iの目的は情報処理に関わるITリテラシーやスキルを身につけることにあります。  また数理・データサイエンス・AI教育として、「情報学」(データ収集・加工・処理)、「統計学」(データ分析・解析)、AIの導入項目(総論)を学びデータサイエンティストの基礎を築いていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3</li> </ul>					
(方法)					
<p>情報リテラシー、スキルまた数理・データサイエンス・AI教育の基礎知識について講義を通じ学び、実習を行うことにより具体的方法を学習していきます。</p>					
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の社会人として必要な情報リテラシーやスキルの習得を目指す。</li> <li>・これからのコモンリテラシー教育の一つに位置付けされている数理・データサイエンス教育の基礎の習得を目指す。</li> </ul>					
<b>【行動目標(SB0)】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンス、AIの概要を説明できる</li> <li>・ビックデータを使用したデータ収集・加工・処理、データ分析・解析が行える。</li> <li>・数理・データサイエンス・AIの関連性を説明できる。</li> <li>・パソコンのセキュリティー設定が行える。</li> <li>・Office365の基本機能(Word, Excel, PowerPoint, Teams, OneDrive)を使用できる。</li> </ul>					
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>					
必要に応じ資料を配布します。					
<b>【参考書】</b>					
必要に応じ資料を配布します。					
<b>【評価に関わる情報】</b>					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は評価に含まれません。・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</li> <li>・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。</li> </ul>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識	0	20	25	0	0	0	0	45
	思考・推論・創造の力	0	20	25	0	0	0	0	45
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	#オリエンテーション #情報リテラシー(1) ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・シラバスを見ておく ・データセキュリティについて復習	・10分 ・30分
2	#情報リテラシー(2) ・SNSの使用について ・Teamsの投稿・チャットの使用 ・メールの利用と注意点	浅海(講義・演習)	・SNS・メールの種類と使用時の注意事項について調べておく ・SNS・メールの使用時の注意点についてまとめる。	・15分 ・30分
3	#情報リテラシー(3) ・社会で起きている変化 ・データ・AI利用の最新動向	浅海(講義)	・AIの定義について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
4	#情報リテラシー(4) ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域	浅海(講義)	・AIの利用領域について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
5	#情報リテラシー(5) ・データ・AI利用活用のための技術 ・データ・AI利用の現状	浅海(講義)	・AIの活用の現状について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
6	#情報リテラシー(6) ・データ・AI利用活用における留意事項 ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・AIの活用の危険性について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
7	#ICTリテラシー(1) ・コンピュータの基本構造と周辺装置 ・OSの種類とアプリケーション	浅海(講義)	・パソコンの基本構造について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
8	#ICTリテラシー(2) ・電源のON, OFFとスリープモード ・文字入力方法(キーボード・手書き・音声) ・Webブラウザの操作 ・Office365の基本操作	浅海(講義・演習)	・自分のPCのキーボード操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

9	#ICTリテラシー(3) ・キーボード使用練習 Wordの基本操作(1) ・文字入力の方法(ローマ字入力/全角・半角) ・Wordの起動と終了、文書の保存	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
10	#ICTリテラシー(4) Wordの基本操作(2) ・文書レイアウトの設定 ・フォントの設定と文字配置 ・あいさつ文の挿入とインデント	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
11	#ICTリテラシー(5) Wordの基本操作(3) ・罫線と表の挿入・写真と図の挿入 ・箇条書きと段落番号 ・ヘッダーフッター・印刷	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
12	#ICTリテラシー(6) PowerPointの基本操作(1) ・PowerPointの機能と特徴 ・スライドマスターの設定 ・アウトラインで構成を練る	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
13	#ICTリテラシー(7) PowerPointの基本操作(2) ・表紙の作成、文字入力とレイアウトの調整 ・テキストボックスの挿入、アニメーションの設定	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
14	#ICTリテラシー(8) PowerPointの基本操作(3) ・ヘッダー・フッターの編集と挿入 ・ブラフの作り方	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
15	#ICTリテラシー(9) PowerPointの基本操作(4) ・音声・動画の挿入 ・スライドの印刷 ・スライドショーの方法	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
16	#ICTリテラシー(10) PowerPointの基本操作(5) ・プレゼンテーションの操作方法 ・発表者ツールとタイミングの方法 ・発表済みファイルの保存	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
17	#ICTリテラシー(11) Excel (1) ・Excelの基本概念、データ(数値・文字)の入力 ・数式を入力する、関数の利用	浅海(講義・演習)	・Excelの基本概念について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
18	#ICTリテラシー(12) Excel (2) ・セルとの書式設定と表示形式、セルの複写・結合・挿入 ・罫線とセルの塗りつぶし、グラフの作成	浅海(講義・演習)	・Excelの書式について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
19	#ICTリテラシー(13) Excel (3) ・データベースとテーブル	浅海(講義・演習)	・データベースについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

20	#ICTリテラシー(14) Excel (4) ・ピボットテーブルの使用法	浅海(講義・演習)	・ピボットテーブルについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
21	#ICTリテラシー(15) Excel (5) ・Formsの利用 ・アドインの組み込み(統計ツールなど)	浅海(講義・演習)	・Formsについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
22	#ICTリテラシー(16) Excel (6) ・その他発展的利用方法	浅海(講義・演習)	・Excelのアドインについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
23	#総合演習(1) オリエンテーション ・地域の課題を公開データより収集する。 ・Excel等を用いてデータを分析する。 ・分析したデータを用い問題点・考察・提言などをP.Pでまとめる。	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
24	総合演習(2) テーマ決定 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
25	総合演習(3) データ収集 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
26	総合演習(4) データ収集・分析 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
27	総合演習(5) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
28	総合演習(6) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
29	総合演習(7) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
30	総合演習(8) PPT完成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分

<b>【科目名】</b>	医療英語ベーシック		<b>【担当教員】</b>	鈴木 美和子
<b>【授業区分】</b>	教養分野(外国語)	<b>【授業コード】</b>	1-06-0000-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)
<b>【単位数】</b>	2	<b>【コマ数】</b>	30	(オフィスアワー) 授業前、教室にて
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格レベルの英語力獲得を目標とする。又、学外検定試験にも対応できるようにする。				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要なとされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解できるようになる。検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上をする。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』				
<b>【参考書】</b>				
辞書(英和、和英)を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
小テスト(文法・表現テスト及び単語テスト)及び期末試験結果を総合的に評価する。 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30	0	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	70	30	0	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	0
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1. 2 単語テスト1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1. 3 単語テスト2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1. 4 単語テスト3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1. 5 単語テスト4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1. 6 単語テスト5	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2. 1 単語テスト6	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15-16	教科書： 第1部レッスン8、第2部2. 2	講義及び演習	総復習	45分



17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2. 3 単語テスト1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2. 4 単語テスト2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3. 1 単語テスト3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
23-24	教科書： 第1部レッスン12、第2部3. 2 単語テスト4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
25-26	教科書： 第2部3. 3、3. 4 単語テスト5	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
27-28	教科書： 第2部3. 5、4. 1 単語テスト6	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
29-30	教科書：出発 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。 総復習	45分

<b>【科目名】</b>	医療英語アドバンス		<b>【担当教員】</b>	伊藤 知明
<b>【授業区分】</b>	教養分野(外国語)	<b>【授業コード】</b>	1-06-0005-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)
<b>【単位数】</b>	2	<b>【コマ数】</b>	30	(オフィスアワー) 授業終了後の教室内
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。				
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文及び長文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの専門的な英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要なとされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージや長文を読解し、実用的な英文が書けるようになる。医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』				
<b>【参考書】</b>				
辞書(英和、和英)を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
試験及び小テスト(単語テスト)結果を総合的に評価する。				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。				
出席点は評価に含まない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部 Lesson 1、第2部 Introduction 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分
3-4	教科書： 第1部 Lesson 2、第2部 1. 1 長文読解 単語テスト 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第1部 Lesson 3、第2部 1. 2 長文読解 単語テスト 2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第1部 Lesson 4、第2部 1. 3 長文読解 単語テスト 3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第1部 Lesson 5、第2部 1. 4 長文読解 単語テスト 4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第1部 Lesson 6、第2部 1. 5 長文読解 単語テスト 5	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第1部 Lesson 7、第2部 1. 6 長文読解 単語テスト 6	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分
15-16	教科書： 第1部 Lesson 8、第2部 2. 1 長文読解 単語テスト 7	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テ ストの勉強。	45分

17-18	教科書： 第1部 Lesson 9、第2部2. 2 長文読解 単語テスト8	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
19-20	教科書： 第1部 Lesson 10、第2部2. 3 長文読解 単語テスト9	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
21-22	教科書： 第1部 Lesson 11、第2部2. 4 長文読解 単語テスト10	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
23-24	教科書： 第1部 Lesson 12、第2部3. 1 長文読解 単語テスト11	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
25-26	教科書： 第2部3. 2、3. 3 長文読解 単語テスト12	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
27-28	教科書： 第2部3. 4、3. 5 長文読解 単語テスト13	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
29-30	教科書： 第2部4. 1、Departure 長文読解 単語テスト14 まとめ	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分

<b>【科目名】</b> 医療英会話ベーシック		<b>【担当教員】</b> Sam Suleiman	
<b>【授業区分】</b> 教養分野(外国語)	<b>【授業コード】</b> 1-06-0010-2	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
<b>【単位数】</b> 2	<b>【コマ数】</b> 30	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2			
(方法)			
医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。			
<b>【行動目標(SB0)】</b>			
様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』			
<b>【参考書】</b>			
辞書(英和、和英)を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1. 3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1. 4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1. 5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1. 6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン8、第2部2. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2. 3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2. 4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： 第1部レッスン12、第2部3. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： 第2部3. 3、3. 4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： 第2部3. 3、5. 4. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

<b>【科目名】</b> 医療英会話アドバンス		<b>【担当教員】</b> Sam Suleiman	
<b>【授業区分】</b> 教養分野(外国語)	<b>【授業コード】</b> 1-06-0015-2	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 2	<b>【コマ数】</b> 30	(オフィスアワー) 授業後、教室にて	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2			
(方法)			
医療福祉英語検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返す行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。			
<b>【行動目標(SB0)】</b>			
医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。様々な医療現場における会話を聞き理解できるようになるとともに、それを会話で応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定3級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』			
<b>【参考書】</b>			
辞書(英和・和英)を必ず持参のこと。教員を除きスマートフォンの使用は禁ずる。			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
試験結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1. 3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1. 4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1. 5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1. 6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン7、第8部2. 2 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2. 3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2. 4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
23-24	教科書： 第1部レッスン11、第2部3. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
25-26	教科書： 第1部レッスン12、第2部3. 2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
27-28	教科書： 第3部3. 3、3. 4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
29-30	教科書： 第3部3. 5、4. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

<b>【科目名】</b>	解剖学・総論 I		<b>【担当教員】</b>	松村 博雄
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(基礎医学)	<b>【授業コード】</b>	2-11-0000-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	<b>【大学取次】</b> nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2				
(方法)				
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の構造などを講義します。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に体幹についてその構造や働きを理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
ヒトの体幹を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年				
<b>【参考書】</b>				
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765				
平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130				
小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、小テストと試験トにより総合的に行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	みずから考え、学習するということ。医学を学ぶということ。脊椎動物について。身体の組織について。骨の組織構造および脊柱について。関節の構造について。	講義		
3・4	胸郭の構造－胸郭を構成する骨格について。筋肉・腱・靭帯の組織構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	胸郭の構造－胸郭を構成する筋肉について。神経組織について。脊髄神経について、筋肉と神経の関係について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	腹部の筋肉とその支配神経について。横隔膜と呼吸運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	腹壁と鼠径部の構造について。鼠径管について。腰部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	頸部の骨格、頸部の筋肉とその支配神経について。胸郭への入り口の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	頸部表面に投影される三角のいろいろ。頸部の大血管について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。解剖学的な肢位、運動の軸や面について。試験	講義と試験	前回の講義の復習	30分

<b>【科目名】</b>	解剖学・総論Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	松村 博雄
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(基礎医学)	<b>【授業コード】</b>	2-11-0005-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	<b>【大学取次】</b> nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2				
(方法)				
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、上肢帯および上肢の解剖学を講義します。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に上肢帯と上肢についてその構造や働きを理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
ヒトの上肢及び上肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連の関節の構造やその運動を説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年				
<b>【参考書】</b>				
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版、1985年。¥9,765				
平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版、1984年。¥11,130				
小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年。¥9,030				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、小テストと試験トにより総合的に行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	上肢帯と上肢の骨格について。上肢帯の関節について。肩関節について。	講義	解剖学・総論 I の復習	40分
3・4	上肢帯の筋肉について。肩甲骨の運動について。肩関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	腕神経叢について。腋窩の構成について。上肢の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	前腕の骨格について。肘関節について。肘関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	前腕の筋肉について。肘窩について。上肢の脈管について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	手の骨格について。手根管について。手関節の筋肉と運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	手内筋について。母指球と小指球について。手指の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。指の屈曲・伸展機構について。 試験	講義と試験		

<b>【科目名】</b>	生理学 I		<b>【担当教員】</b>	山口 賢一
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(基礎医学)	<b>【授業コード】</b>	2-11-0030-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	kenbo@med.niigata-u.ac.jp または kenbo2@gmail.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控え室にて対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
高等学校で生物を履修していない学生は、高校生物の教科書、または参考書を学習して、生理学を理解する上で必要な基礎知識を補って下さい。不安な場合はいつでも相談に応じます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退室を求めることがあります。試験結果・レポートは他に支障をきたさない場合に限って返却します。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなしくみで成り立っているのかを理解する学問が生理学である。正常な生体機能を維持するための水分調節、血液、心臓循環系、老廃物排泄などのしくみを学んだ後、これらを調節する神経系と内分泌系の役割を学習する。これらの学習を通して、身体の成分や構造と心身の機能を総合的に理解することを目標とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して学生に考えさせ、授業の疑問点や質問等を一人一人に書いて貰う。小テストも行う。毎時間それらを確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復説明する。本科目は主として、「体液の種類や性質とその調節」、「血液の成分と働き」、「心臓循環系の成り立ちと機能、その調節」、「泌尿器官による老廃物の排泄」などを重点的に講義する。				
<b>【一般教育目標(GI0)】</b>				
人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、体液の性質と調節、血液の成分とそれらの働き、心臓血管系、泌尿器系の役割などについて説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
内田さえ・佐伯由香・原田玲子 著 「人体の構造と機能 第5版」 医歯薬出版社 ¥3,060 (税込み 以下同) ゴロー 著・大和田潔 監修 「解剖生理学 超速! ゴロ勉」 永岡書店 ¥1,650				
<b>【参考書】</b>				
高松研・堀内ふき 監修 「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター ¥4,180 田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第3版」 医学書院 ¥2,860 (税込み) 山本敏行・鈴木泰三・田崎京二 著 「新しい解剖生理学 改定12版」 南江堂 ¥3,520				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価 指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	生理学とはどんなことを学ぶ教科であるのか、大学でどのような姿勢で生理学を学ぶのか、ヒトが生きているとはどういうことか、器官分化と機能協調の重要性や病気の意味を考える。	講義 (担当山口)	化学エネルギー、ADP、ATP、三大栄養素、TCA回路、 $\beta$ 酸化、活性酸素、生物学的仕事、内部環境、細胞外液、組織液、器官分化、恒常性の維持、ホメオスタシス。	15分
3・4	体にある水(体液)の種類、組織液(細胞外液)と細胞内液の性質、成分表示の表し方や単位、細胞内外の電解質について、浸透圧とは何か、浸透圧や血圧による組織液の移動、体液平衡の障害から起こる病気。	講義 (担当山口)	細胞内液・細胞外液、組織液・間質液、電解質・非電解質、モル濃度、当量、半透膜、浸透圧、オスモル、一次脱水、二次脱水、浮腫。	15分
5・6	血液の成分とそのはたらき-1。 血漿と血清の違い、それぞれの成分、赤血球の働き、赤血球の産生と破壊、白血球の種類、白血球の働き、アレルギー、抗原抗体反応。	講義 (担当山口)	赤血球、ヘモグロビン、メトヘモグロビン、CO中毒、酸素解離曲線とその意味、食球、走化性、血管外遊走、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、T細胞、B細胞、抗体、ワクチン。	15分
7・8	血液の成分とそのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、止血作用と血液凝固、血小板に由来する病気、血液型の種類、輸血や臓器移植に起因する問題。	講義 (担当山口)	血液凝固、線溶、止血作用、血液凝固、凝固因子の種類と働き、血友病、塞栓症、ABO血液型、交差試験、Rh血液型、拒絶反応、MHC抗原。	15分
9・10	心臓循環系-1。 心臓の構造、左右の心室による血液循環の相違、心臓における興奮の発生、興奮伝道のしくみ、伝導の異常と心臓の病気、心電図と心音、聴診器、心臓のポンプ作用。	講義 (担当山口)	洞結節、前電位、房室結節、刺激伝導系、期外収縮、代償性休止、不整脈、伝導ブロック、加速伝導、心電図波形とその意味、心電図記録法、心拍出量と病気。	15分
11・12	心臓循環系-2。 心臓拍動に伴う諸現象とそれらの総合的理解、全身の血管系の概観と血流配分、血管の構造と種類、各血管系の特徴、動脈の性質と血圧の測定、毛細血管・静脈の働き。	講義 (担当山口)	房室弁、動脈弁、心房圧、心室圧、等容性収縮期、等容性拡張期、心音、心不全、弾性血管、抵抗血管、高血圧、交換血管、容量血管、肺循環、冠状循環、脳の血管系。	15分
13・14	心臓循環系-3。 体循環系・冠状循環系・肺循環系・脳血管系の特徴と機能、心血管機能の調節・血管内皮細胞・血管障害と病気、リンパ管系の成り立ちと機能、脳脊髄液、酸塩基平衡。	講義 (担当山口)	冠状動脈口、肺動脈楔入圧、肺高血圧、血圧・化学受容器、伸展受容器、自律神経、血管運動中枢、一酸化窒素、血管調節ホルモン、リンパ流、脳室、脳脊髄液。	15分
15	腎臓の構造と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿管や集合管の機能とその調節、クリアランス、尿の性状と排尿のしくみ、利尿薬の作用。	講義 (担当山口)	ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、原尿、近位・遠位尿管、集合管、尿管、アンジオテンシン、アルドステロン、抗利尿ホルモン、利尿薬、尿素、オルニチン回路、排尿反射。	10分



<b>【科目名】</b>	生理学Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	山口 賢一
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(基礎医学)	<b>【授業コード】</b>	2-11-0035-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	kenbo@med.niigata-u.ac.jp (山口) または kenbo2@gmail.com (山口)
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控室にて対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 生理学Ⅰを履修すること				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。 試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) 生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するため、脳や脊髄などの中枢神経や末梢神経、および体内の様々な組織から放出されるホルモンやオートコイドなどが、体内でどのような調節作用を演じているのかを学修する。さらに、感覚機能や運動機能が、神経や筋肉のどのような働きによって達成されるのかを修得する。これらにより、身体の構造と心身の機能について、総合的な理解を深化させる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して学生に考えさせ、授業の疑問点や質問等を一人一人に書いて貰う。小テストも行う。毎時間それらを確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復説明する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。				
<b>【行動目標(SBO)】</b> 神経系の成り立ち・構造と機能、全身の内分泌器官の種類と各所から分泌されるホルモンの作用、筋肉の分類・特徴・収縮の機構、感覚の種類について説明することができる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 内田さえ・佐伯由香・原田玲子 著 「人体の構造と機能 第5版」 医歯薬出版社 ¥3,060 (税込み 以下同) ゴロー 著・大和田潔 監修 「解剖生理学 超速! ゴロ勉」 永岡書店 ¥1,650				
<b>【参考書】</b> 高松研・堀内ふき 監修 「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター ¥4,180 田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第3版」 医学書院 ¥2,860 (税込み) 山本敏行・鈴木泰三・田崎京二 著 「新しい解剖生理学 改定12版」 南江堂 ¥3,520				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価 指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達、神経伝達物質。	講義 (担当山口)	膜電位、脱分極、過分極、イオンチャンネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エクソサイトーシス、シナプス前膜、シナプス後膜、神経伝達物質受容体。	15分
3・4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的な神経の分類、末梢神経系と中枢神経系、体性神経系・自律神経系の成り立ちと働き。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、前索、側索、後索、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経。	15分
5・6	神経系の構造と機能-3。脊髄と脳の構成、各領域区分の構造と作用、脳波の記録と波形の意味、睡眠の状態と病気に伴う脳波の変化。	講義 (担当山口)	延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、除波睡眠、REM睡眠。	15分
7・8	内分泌系とホルモンの作用-1。体内にある調節物質の種類と分類、内分泌器官の部位と種類、ホルモンの種類と分類、ホルモンの受容体の種類と特徴。	講義 (担当山口)	細胞膜受容体、細胞内受容体、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、松果体ホルモン、視床下部ホルモン、正中隆起、下垂体門脈、前葉ホルモン、後葉ホルモン。	15分
9・10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎から分泌されるホルモンの種類と作用。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、産熱、上皮小体、カルシトニン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン、副腎皮質、副腎髄質、血糖調節、電解質調節。	15分
11・12	内分泌系とホルモンの作用-3。腎臓、性腺、心臓、消化管、その他の組織から分泌されるホルモンやホルモン類似物質の種類と作用。	講義 (担当山口)	コルチコイド、カテコラミン、レニン・アンジオテンシン系、心房性ナトリウム利尿ホルモン、hGG、hPL、オータコイド、プロスタグランジン、ヒスタミン。	15分
13・14	筋肉とその収縮機構-1。筋肉の種類、骨格筋の構造、等尺性・等張性収縮、神経・筋接合部と活動電位の発生、横紋筋収縮のメカニズム、感覚の種類と体性感覚。	講義 (担当山口)	横紋筋、平滑筋、赤筋、白筋、ミオグロビン、単収縮、強縮、アクチン、ミオシン、T管、筋小胞体、カルシウム、ギャップジャンクション、トロポニン、ATP、ADP。	15分
15	筋肉とその収縮機構-2。平滑筋収縮のメカニズム、筋収縮とエネルギーの産生・貯蔵、脊髄を介する筋反射の種類と神経機構、脳による筋運動の調節。	講義 (担当山口)	カルモジュリン、ミオシン軽鎖、解糖系、クエン酸回路、クレアチン燐酸、伸張反射、筋紡錘、拮抗抑制、内臓反射、屈曲反射、交差性伸展反射、間脳・中脳・除脳・脊髄動物。	10分

【科目名】	栄養学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-14-0455-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での栄養教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、生命維持に欠かせない栄養の基本的な仕組みと、ライフステージや疾患に応じた栄養摂取法について講義・演習を行っていきます。臨床経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。栄養学の基礎知識はすべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思えます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない中途退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。教科書は指定いたしません。講義中あるいは終了後にレポートを課す場合があります。また、自身の食生活調査や栄養計算等も行っています。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防・改善できる基礎を学ぶことを目的とします。また、高齢社会において注目されているサルコペニア/フレイルと栄養の関係も説明でき、適した栄養摂取法により摂食嚥下障害や誤嚥性肺炎を予防・改善することも可能であることも学びます。</p> <p>当該科目と学位授与との関連性：A-3, P-2, O-2, R-2</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解する。      生物としての生命/生活を維持のため、栄養的な側面から必要な食品の栄養特性と物性を説明できる。      栄養と健康維持・増進、栄養と疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。      フレイル及びサルコペニアの予防、更に認知機能障害の予防を栄養管理の面から説明できる。      「食べる」営みが楽しみや生きがいなどQOLに関わり、心理・社会的な側面からも人の命を支えていることを理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p>栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。      ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。      保健・医療・福祉等でのリハビリテーションにおける栄養管理法の基礎を修得する。      経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。      栄養状態とうつ症状等の心理状態の関係性を理解し、臨床現場で身体と心の両面から適切な支援ができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定しない				
【参考書】				
<p>田村明(著)「イラスト栄養学総論」東京教学社; 第9版(2021) ¥2,420      栢下淳・若林秀隆(編著)「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎; 第3版」医歯薬出版(2022/12) ¥4,180      若林秀隆(編著)「リハビリテーション栄養 ハンドブック」医歯薬出版(2010/11) ¥3,960</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は評価に含まない。</li> <li>・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</li> <li>・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		30					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク・エネルギー低栄養状態(PEM)とは ・栄養状態の評価法(栄養スクリーニング)	講義	加齢による「食べること」についての障害を知り、適切な栄養サポートを学ぶ。	30
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・低栄養とうつ ・脳と栄養	講義	栄養状態とうつ症状等の心理状態との関係性を理解する	30
3	何故食物を摂取するのか? ・人体の構成 ・消化、吸収、代謝	講義	栄養素の吸収のしくみを知る	30
4	経口摂取と非経口摂取法 ・摂食嚥下障害 ・食形態 ・栄養投与ルート	講義	非経口摂取法の基本を知る	30
5	栄養素Ⅰ_3 大栄養素① ・三大栄養素とは 1)炭水化物 糖質の成分と栄養特性 食物繊維のはたらき	講義 一部演習	三大栄養素の定義を理解する 炭水化物の種類と機能を知る	30
6	栄養素Ⅰ_3 大栄養素② 食品の成分と栄養特性 2)脂質 3)たんぱく質	講義	脂質とたんぱく質の種類と機能を知る 必須脂肪酸/必須アミノ酸の機能を理解する	30
7	栄養素Ⅱ_5 大栄養素① ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義 確認テスト	ビタミンの種類と機能を知る ビタミンの生理機能を理解する	30
8	栄養素Ⅱ_5 大栄養素② ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状 ・脱水症状	講義	ミネラルの生理機能を理解する 脱水症状とその予防法を学ぶ	30

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン ・栄養計算（演習） ・エネルギーバランスの計算	講義 一部演習	エネルギー代謝と食事摂取基準 レポート作成	60
10	食品群別摂取量 ・栄養バランス ・栄養バランスガイド（演習）	講義 一部演習	バランスがとれた食事を理解する 食事調査を実施する	120
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義 一部演習	乳幼児期、児童期、青年期、成人期、妊娠・授乳期、高齢期の各身体の特徴と主な食事の留意点を理解する。	30
12	健康と食生活 ・心疾患、脳血管疾患、高血圧、糖尿病等	講義	栄養と疾患の関係を理解し、適切な栄養管理ができる。	30
13	介護予防のための栄養食事管理法① ・骨粗鬆症	講義	資料【[食べる]+[動く]→[健康寿命]】の意味を理解する。	30
14	介護予防のための栄養食事管理法② ・フレイルとは ・サルコペニア/フレイル予防と栄養	講義 一部演習	資料配布 フレイルチェック（演習）	30
15	まとめ 多職種連携における ・栄養サポートチーム(NST) ・栄養ケアマネジメント(NCM)	講義 一部演習	臨床における栄養管理 NSTとは多職種で構成された医療チームであることを理解する	30

【科目名】 リハビリテーション概論		【担当教員】 高橋 明美、藤本 聡、高橋 圭三、大矢 薫
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理士・臨床心理士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からリハビリテーションやその分野における各専門職の役割などについて講じていきます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 小テストについては、返却します。 試験の解答については、原則返却しません。 予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。		
<b>【講義概要】</b> (目的) リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2, 3 (方法) 資料・教科書を用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。		
<b>【行動目標(SB0)】</b> 1. リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。2. 障害の概念や分類について説明できる。3. リハビリテーションの過程について説明できる。4. 各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5. リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6. ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>		
<b>【参考書】</b> ①真柄彰, 他：リハビリテーション概論, 理工図書, 2017, ¥4700 (税別) ②上好昭孝, 他：医学生・コメディカルのための手引書, リハビリテーション概論, 改訂第3版, 永井書店, 2014, ¥3000 (税別)		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テスト、レポートにより総合的に評価する。 出席点は評価には含まれません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義  (高橋明美)	(復習) 講義で配布された資料を読むこと	90
2 前期	疾病と障害の概念、分類	小テスト、講義  (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義  (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度 理学療法概論	小テスト、講義  (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
5 前期	作業療法概論	講義  (藤本)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
6 前期	言語聴覚療法概論	講義  (専任教員)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
7 前期	リハビリテーション心理概論	講義  (大矢)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
8 前期	まとめ  試験	小テスト、講義 レポート (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90

<b>【科目名】</b>	公的扶助論		<b>【担当教員】</b>	林 正海
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(社会福祉)	<b>【授業コード】</b>	2-13-0015-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	office@hayashi-fukushi.net
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 授業後とメールで質問相談に応じる
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定のテキストを購入のうえ受講を必須とする。テキスト未準備のまま受講は不可とする</li> </ul>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインによる授業を想定しているため、指定テキストありきの進行となる。テキスト不所持では理解困難であり、定期試験においても参照を可とするので必ず準備すること。</li> </ul>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>本邦における公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とする。また、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。講義においては、公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、個人責任のみとは言えない貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援態度について理解する。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は公的扶助が必要となった事例について配布資料・映像資料を用いてイメージを作り、その後、教科書・統計情報等の配布資料を用いながら、公的扶助に関する総論的講義を行います。憲法における生存権の保障のもとに、生活保護制度の理念、原理原則、発展過程の講義を行います。地域における低所得層支援の実際事例を伝えていきます。</p>				
<b>【一般教育目標(GI0)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>公的扶助に関する概略を理解する。</li> <li>公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。</li> <li>憲法に保障された生存権の保障について理解する。</li> <li>生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を理解する。</li> <li>低所得等により支援が必要な方の心情を理解し支援を必要とする方に対する専門職としての支援態度を理解する。</li> </ul>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>公的扶助とはどのようなことか説明できる。</li> <li>公的扶助が必要となる様々な社会的背景を説明できる。</li> <li>憲法に保障された生存権の保障について説明できる。</li> <li>生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を説明できる。</li> <li>低所得等により支援を必要とする方に対する、専門職としての支援態度を説明できる。</li> </ul>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<p>「貧困に対する支援」 ミネルヴァ書房 2021年10月20日出版 定価2600円+税  岩崎晋也 監修/白澤政和 監修/和気純子 監修/岩永理恵 編著/後藤広史編/山田壮志郎 編著  ISBN 9784623092093</p>				
<b>【参考書】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省ホームページ / 厚生労働白書・直近年度の被保護者調査結果等公表データ等</li> </ul>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>出席点は評価に含みません。</li> <li>成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。</li> <li>成績評価は定期試験(50%)、レポート評価(50%)とする。</li> </ul>				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	0	50	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	40	0	50	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	10	0	0	0	0	0	0	10
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	現代社会の中の貧困について理解する「貧困」に対する学生が持つイメージと「貧困の実際」についての違いを理解する。「見える貧困」「見えない貧困」について動画視聴・資料等を基に解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	貧困状態にある人を取り巻く環境と生活実態を理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	福祉国家と公的扶助の位置づけについて理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	生活保護制度の原理・原則、保護の種類・範囲・方法と基準などについて理解するための解説講義を行う (1)	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	生活保護制度の原理・原則、保護の種類・範囲・方法と基準などについて理解するための解説講義を行う (2)	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	多様化する貧困状況と生活困窮者支援制度についてを理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	貧困と生活困窮者に対する支援の実際について理解するための解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	公的扶助論まとめ 試験範囲を提示する	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイント	90

<b>【科目名】</b> 権利擁護と成年後見制度論		<b>【担当教員】</b> 林 正海	
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野(社会福祉)	<b>【授業コード】</b> 2-13-0020-3	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	office@hayashi-fukushi.net	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 授業後とメールで質問相談に応じる	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定のテキストを購入のうえ受講を必須とする。テキスト未準備のまま受講は不可とする</li> </ul>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインによる授業を想定しているため、指定テキストありきの進行となる。テキスト不所持では理解困難であり、定期試験においても参照を可とするので必ず準備すること。</li> </ul>			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
<p>少子高齢社会では、認知症の方や障がいを持たれた方への支援の重要性は増しています。この科目は臨床で求められる権利擁護と成年後見制度の基礎的知識を養うものです。権利擁護を総論的に理解するとともに、その具体的な手法の一つである成年後見制度による支援方法を学びます。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>			
(方法)			
<p>主として、教科書と配布資料を使用して、前半は権利擁護が必要になる事例を提示して、権利擁護についての講義を行ないます。後半では権利擁護の方法として、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の制定背景、仕組みへの理解を深める。また権利擁護に関連する周辺法律である高齢者虐待防止法、障がい者虐待防止法、児童虐待防止法についても講義します。</p>			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>本邦における権利擁護に関する法制度の概略を理解する。</li> <li>本邦における成年後見制度の概略を理解する。</li> <li>本邦における日常生活自立支援事業の概略を理解する。</li> <li>本法における各虐待防止法の概略を理解する。</li> </ul>			
<b>【行動目標(SBO)】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>権利擁護、成年後見制度、日常生活自立支援事業が求められる社会的背景を説明できる。</li> <li>成年後見制度における任意後見制度と法定後見制度の違いを説明できる。</li> <li>後見・保佐・補助の違いを説明できる。</li> <li>本邦における高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法について説明できる。</li> </ul>			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
<p>「権利擁護とソーシャルワーク」発行所 ミネルヴァ書房 (2800円+税) 2019年1月20日発行  編著者上田晴男, 小西加保留, 池田直樹, 発行者杉田啓三, 印刷者田中雅博 ISBN 9784623082940</p>			
<b>【参考書】</b>			
<p>厚生労働省HP  法務省HP</p>			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>出席点は評価に含みません。</li> <li>成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。</li> <li>成績評価は定期試験(50%)、レポート評価(50%)で行う</li> </ul>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	0	50	0	0	0	0	100
評価 指標	取り込む力・知識	40		50					90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ	0							0
	発表力	0							0
	学修に取り組む姿勢	0							0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	権利擁護とは何か ・ソーシャルワークの理念と権利擁護	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	ソーシャルワークとアドボカシー ・アドボカシー ・エンパワメント ・自己決定尊重 ・環境アセスメント	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	意思決定支援の理解 ・意思決定支援と代理代行決定 ・権利擁護としての意思決定支援	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	権利擁護と法 ・憲法規範としての権利擁護 ・民法における権利・義務・責任 ・権利擁護を目的とした行政法規	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	成年後見制度の理解 (1)	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	成年後見制度の理解 (2)	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	成年後見制度の権利侵害事例への活用	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	福祉サービスと権利擁護 ・日常生活自立支援事業 ・福祉サービスと苦情解決のしくみ ・福祉サービスと第三者評価  まとめ	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90

<b>【科目名】</b>	心理学統計法 I		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0020-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。          これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。          心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的検定について電卓を使ってその方法を練習します。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。          当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2、R-2          本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。</p>				
(方法)				
<p>心理統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。</p>				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
<p>変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析について説明ができる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>				
<b>【参考書】</b>				
<p>吉田(著) 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本, 北大路書房, 2018年, ¥2,750</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 心理学の学びに統計学が何故必要なのか	講義	心理学領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3・4	種々の変数について	講義・演習	心理学で扱われる種々の変数の違いを説明できる	120
5・6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7・8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9・10	散布度(分散と標準偏差)	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11・12	共分散と相関(1)	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13・14	共分散と相関(2)	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

<b>【科目名】</b>	心理学統計法Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0025-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。          これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。          心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。演習を通して統計学的検定がどのようなプロセスで行われているのか理解を深めます。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。          当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2、R-2          本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。</p>				
(方法)				
<p>心理学統計法Ⅰで学んだ記述統計の知識を土台として、推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、推測統計の基礎を理解する。</p>				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
<p>χ<sup>2</sup>乗検定、t検定、分散分析、回帰分析について説明ができる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>				
<b>【参考書】</b>				
<p>山田・村井(著) よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥2,800+税</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	統計学的仮説検定とは	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	120
3・4	$\chi^2$ 乗検定	講義・演習	$\chi^2$ 乗検定の基本的な考え方を理解できる。	120
5・6	t検定(1)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
7・8	t検定(2)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120
9・10	分散分析(1)	講義・演習	一要因の分散分析について理解できる。	120
11・12	分散分析(2)	講義・演習	多重比較について理解できる。	120
13・14	回帰分析	講義・演習	回帰分析の考え方について理解できる。	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

<b>【科目名】</b>	中国語		<b>【担当教員】</b>	橋本 親往
<b>【授業区分】</b>	教養分野(外国語)	<b>【授業コード】</b>	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	hashimoto@nur.ac.jp
<b>【単位数】</b>	2	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 08:30~17:30
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
初修中国語会話なので、中国や中国医学、中国語に関心のある人は誰でも履修することができる。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
すべて配信授業なので、毎回ビデオを積極的に視聴し、発音・発声すること、宿題・復習・予習することが求められる。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人」で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現のしかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができたらよいが、本講義はその入門授業である。				
当該科目と学位授与方針等との関連性 A 1,2				
(方法)				
中国語の発音、ローマ字表記、初級会話や関連する単語・常用表現などを学ぶ。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
将来、本格的中国語の学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話を身につける。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
あいさつ、自己紹介や簡単な会話ができるようにする。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
どんと来い中国語『無料中国語会話テキスト』の中国語本文を基に、日本語解説などを修正編集、PDFをMP4に変換。				
<b>【参考書】</b>				
小学館『中日辞典』『日中辞典』（電子辞書）				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
毎回の視聴状況・課題または小テストにより総合的に評価。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60					40	100
評価 指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力		30						30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							15	15
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	「中国語」とは 発音……ローマ字「拼音」 単語＝文字のアクセント(声調)……四声、轻声 北京語音表	発音練習		30  60
2	北京語音表	発音練習		90
3	第1課 こんにちは 会話／単語 注目フレーズ(常用語)：あいさつ言葉 語彙：指示代名詞 文法：「～嗎」の疑問文	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
4	第2課 お元気ですか 会話／単語／注目フレーズ(常用語)：時間帯別のあいさつ言葉 文法：「也・都」の使い方 質問：「你早」と「早上好」のニュアンスの違い	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
5	第3課 お忙しいですか 会話／単語／注目フレーズ(常用語)：否定詞を使った質問文「不～嗎」 語彙：時制をあらわす言葉 文法：自然な否定文「あまり～ない」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
6	第4課 家の中の様々な生活用品【単語】 リビングに関する単語／ベッドルームに関する単語／バスルームに関する単語／キッチンに関する単語／書斎に関する単語	発音練習	学習チェックテスト	90
7	第5課 お名前は 会話／単語／注目フレーズ(常用語)：①「私の名前は～です」②初対面で使う「お会いできてうれしいです」 文法：「就」の使い方	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
8	第6課 今日は何月何日 会話／単語／語彙：日付や曜日の言い方／注目フレーズ(常用語)：①「～でもいいですか」「～しましょうよ」②「だね」「だよ」色々な語気助詞／文法：「是」の省略 主語・補語を直結	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90

9	第7課 ご紹介します 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①「どなたですか」②「ちょっと～する」③「ご紹介します」④「道中気をつけて」／文法：①所有や所属を示す「的」②最も基本的な文型「主語＋述語」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
10	第8課 何人家族ですか 会話／単語／語彙：家族関係を表す呼び名 文法：①所有や所在を表す「有」の文型 ②介詞「在」を使った文型	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
11	第9課 基本単語① 人称代名詞／指示代名詞／疑問詞／基本的な動詞	発音練習	学習チェックテスト	90
12	第10課 いま何時 会話／単語 語彙：時間の表し方 文法：時間詞を置く語順	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
13	第11課 お家はどこですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①数量の尋ね方②「ならばよかった」 文法：V1してV2する…二つの動作が連続する連動句	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
14	第12課 試着室はどこ 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：①ものを尋ねる「すみません」②文を強調「就」 文法：①方位詞②正反疑問文「V＋不＋V」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
15	第13課 基本単語② 助詞（介詞：時間／場所・範囲／方向／対象）／ 能願動詞（できる・したい・すべき） 基本的な形容詞	発音練習	学習チェックテスト	90

<b>【科目名】</b> 解剖学・各論Ⅱ		<b>【担当教員】</b> 西野 幾子
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野(基礎医学)	<b>【授業コード】</b> 2-11-0005-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 授業終了後、非常勤控室で対応。
<b>【注意事項】</b>		
(受講者に関わる情報・履修条件) 理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻2年次に在学している学生が対象。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。 小テストの結果は全て返却します。 定期試験結果については必要に応じて解説を行います。		
<b>【講義概要】</b>		
(目的) 人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒(胴体と上・下肢)－(頭部と内臓)に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3		
(方法) 教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。 本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。		
<b>【行動目標(SB0)】</b> 人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税		
<b>【参考書】</b> 藤田恒夫、入門人体解剖学 改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税		
<b>【評価に関わる情報】</b>		
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
9・10	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
11・12	生殖器系： 女性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分

<b>【科目名】</b>	生理学実習		<b>【担当教員】</b>	木村 和樹、長谷川 裕、藤本 聡、村井 絹子、星野 浩通
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(基礎医学)	<b>【授業コード】</b>	2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	45コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日 9:00-17:00
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
1年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。各実習は専門領域の教員が、機器の使用方法や目的を説明して実習を行う。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
実習時には白衣・KCを着用すること。実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。 各班ごとに、日時と開講場所が異なるので注意すること。 注：実施する場合は、実習着・フェイスシールド・マスク・手袋等の着用、手指消毒、使用後の機器備品の消毒等を厳格に行う。 この科目は対面授業で行います。ただし、コロナ感染の状況に応じてその限りではありませんので、Teams連絡事項を注意してみてください。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を学修することを目的とする。 ※当該科目と学位授与方針等との関連性:A-2				
(方法)				
前半では動画学習を行い、実習の内容を理解する。 後半では実習を行い、結果をまとめ、自身の考察を記載する。 ※新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインに切り替える可能性もあります。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を習得する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
生理学実習プリント (オリエンテーション時もしくは各実習で配布)				
<b>【参考書】</b>				
貴邑 富久子, 根来 英雄・「シンプル生理学 (改訂第 6 版)」南江堂, 2008 年. ¥3,132 (税込) 大地陸男著・『生理学テキスト (第 7 版)』文光堂, 2013 年. ¥5,184 (税込)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 科目を修得するためには2/3以上の出席およびレポートの提出が条件である。 実習前動画レポートを50点分、実習レポートを50点分とした計100点のうち60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1コマ分	オリエンテーション、動画学習・実習の説明	座学	各講義で準備することを確認する。レポート作成と提出にあたり、注意する事項を理解する。	60
2コマ分	心電図について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	皮膚感覚について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	表面筋電図について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	スパイロメータについて	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	バイタルについて	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	平衡機能について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	血圧測定の演習	実習	実習内容を理解すること。	60



【科目名】	内科学 I		【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0025-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜日 15:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特記なし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけ、病態をイメージし、深く理解できるように留意する。 試験問題は求めがあった場合には開示する。				
【講義概要】				
(目的)				
基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。「感染症」「炎症」「アレルギー」など病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学、治療や予後を十分に理解する。これらにより、心身機能と身体構造、加齢変化、及び疾病や障害への理解、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病についても深く理解する。内科学 I では「消化器」「代謝」などの疾患を各論的に学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。 内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。 リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。</li> <li>・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基本を理解する。</li> <li>・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。</li> </ul>				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。</li> <li>・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院				
【参考書】				
浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版 南山堂				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	内科学概論・解剖と生理・検査	講義	予習・復習	30
2	診断と症候学・臓器不全	講義	予習・復習	30
3	感染症 I (診断と治療)	講義	予習・復習	30
4	免疫と炎症	講義	予習・復習	30
5	腫瘍学総論 (診断と治療)	講義	予習・復習	30
6	内分泌と代謝疾患	講義	予習・復習	30
7	採血検査、画像検査、薬剤	講義	予習・復習	30
8	消化器概論	講義	予習・復習	30

9	消化管疾患とがん	講義	予習・復習	30
10	肝炎・肝不全	講義	予習・復習	30
11	肝硬変・肝がん	講義	予習・復習	30
12	胆道・膵疾患	講義	予習・復習	30
13	糖尿病・高脂血症・高尿酸血症	講義	予習・復習	30
14	内分泌・代謝疾患各論	講義	予習・復習	30
15	前期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】	整形外科学 I		【担当教員】	、栢森 良二
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ryokayamori@outlook.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日14:00~20:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します。整形外科分野の疾病について理解することを目標とします。整形外科の基礎にある解剖学、生理学などの分野に関する教科書を参考に、学習準備をすると良い。</li> <li>*この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で身体機能の維持回復に関わる運動器リハビリテーションに従事してきた経験から、運動器疾患に関して講じます。</li> </ul>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の進行具合によって、講義内容が前後することがあります。</li> <li>・解剖学、生理学、運動学、組織学、病理学等の学習を行きましょう。</li> <li>・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します。講義後1週以内にTeamsあるいはEメールで返却してください。</li> <li>・講義はすべて対面講義で実施します。</li> </ul>				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科領域における疾患の病態、臨床症状、診断、治療などについて学習し、リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解することを目的とします。</li> <li>*当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3</li> </ul>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨、関節、軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います。小テストも事前にTeamsで配布いたします。</li> </ul>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科領域の基本的な疾患の説明ができる。</li> </ul>				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷、各種領域の病態や評価、一般的治療が説明できる。</li> <li>・整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
講義資料を使用します。教科書などはとくにありません。				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論―第3版第4刷」(2023年1月, 医歯薬出版, ¥3,300)</li> </ul>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。</li> <li>・小テスト, まとめの筆記試験, 出席授業態度などを総合的に評価します。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	骨の組織解剖, 骨の成長, 骨粗鬆症と骨軟化症, 骨折の分類(1): 高齢者の4大骨折	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習講義の進行具合によって, 講義内容が前後重複することがある。	60
3, 4	骨折の分類(2): 小児骨折の特徴, 骨折のX線の読影, 人名の付いた骨折, 骨折治療の原則	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60
5, 6	骨折合併症と末梢神経損傷	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60
7, 8	絞扼性神経障害と装具	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60
9, 10	靭帯損傷: 腓板損傷, 足の捻挫, 膝損傷	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60
11, 12	変形性関節症: 膝と股関節	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60
13, 14	関節リウマチ: 病態, 変形, ADL留意点	小テスト, 講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60
15	まとめ	講義	整形外科関連分野の予習, 復習	60

<b>【科目名】</b>	臨床神経学 I		<b>【担当教員】</b>	高橋 英明
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(臨床医学)	<b>【授業コード】</b>	2-12-0045-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	hidencch@gmail.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 来校時対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くといいでしょう。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3				
(方法)				
神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学と脳血管障害、脳腫瘍といった疾患を中心に講義を構成しています。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。				
<b>【参考書】</b>				
医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経」メディクメディア、¥3,990				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況(課題の提出)により評価します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 神経系の構造と脳の手術について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
2	② 神経系の機能と頭蓋内圧亢進と脳ヘルニアについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
3	神経症候③ 神経症候とその診察法について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
4	④ 神経系の画像診断とその他の検査について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
5	⑤ 脳の血管系ともやもや病、脳動静脈奇形について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
6	⑥ てんかんについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
7	⑦ 脳出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分
8	⑧ 脳梗塞について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分 +課題作成15分 +質問5分

9	⑨ くも膜下出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 良性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 神経膠腫について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 転移性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 頭蓋骨腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 嚢胞性病変と神経症状について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ トルーソー症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

<b>【科目名】</b>	臨床神経学Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	高橋 英明
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(臨床医学)	<b>【授業コード】</b>	2-12-0050-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	hidencch@gmail.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 来校時対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くといいでしょう。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3				
(方法)				
神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学と脳血管障害、脳腫瘍といった疾患を中心に講義を構成しています。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。				
<b>【参考書】</b>				
医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経」メディクメディア、¥3,990				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況(課題の提出)により評価します。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	①頭部外傷について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 認知症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 入院患者におけるせん妄について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ 神経系の感染症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 脱髄疾患と変性症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 水頭症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 奇形と母斑症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 片頭痛について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 脊髄疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 末梢神経障害と自律神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 延髄内側・外側症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 脳神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 脳腫瘍の手術症例について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 髄膜癌腫症の病態について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ がん患者とリハビリテーションについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

<b>【科目名】</b> 精神疾患とその治療		<b>【担当教員】</b> 向田 怜史、的場 已知子、望月 佐衣子、塚原 智弘、藤井 純	
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野(臨床医学)	<b>【授業コード】</b> 2-12-0060-1	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15コマ(45分)	(オフィスアワー) 火・木・金 12:40~13:30	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていきます。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
特になし			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
この科目は理学療法士・作業療法士・公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、レゾン等を含み広くリハビリテーション分野および心理臨床分野での精神医学的アプローチを下記を中心に実践的に学ぶ。 ①精神疾患総論②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化③医療機関との連携 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3, P-1, O-1, R-1			
(方法)			
疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICD に準じた基本的な精神疾患について理解する。</li> <li>・ 精神医学独特の専門用語について理解し、使いこなすことができる。</li> </ul>			
<b>【行動目標(SBO)】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己を知り、他者との客観的対応について理解した上で、様々な治療技法について臨床現場で応用出来る</li> </ul>			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
メディカルスタッフのための精神医学 谷岡哲也 友竹正人 安原由子 大坂京子 編集 中外医学社 2021年			
<b>【参考書】</b>			
PT・OT・ST・心理職のための高次脳機能障害・精神医学・心理学必修キーワード 椿原彰夫 著 診断と治療社 2020年 標準理学療法学・作業療法学—専門基礎分野(精神医学) 第4版 奈良勲 鎌倉矩子 上野武 2015年. 医学書院			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</li> </ul>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	精神医学の歴史 精神症状：客観症状と主観症状 意識の障害・自我意識の障害を中心に	講義	教科書P1～P20を読んでおくこと	180分
3・4回	ICDとDSMの違い 精神障害各論 ・物質使用及び嗜癖行動による障害 ・成人のパーソナリティおよび行動の障害	講義	前回の資料と教科書P150～P163、 P204～P208を読んでおくこと	180分
5・6回	精神障害各論 ・統合失調症と妄想性障害 ・気分障害	講義	前回の資料と教科書P165～P185を読んでおくこと	180分
7・8回	薬物治療について	講義	前回の資料と教科書P45～P63を読んでおくこと	180分
9・10回	精神障害各論 ・神経症性障害	講義	前回の資料と教科書P186～P196を読んでおくこと	180分
11・12回	精神障害各論 児童期の精神障害 ・ASD、LD、ADHD、チック障害を中心に	講義	前回の資料と教科書P223～P237を読んでおくこと	180分
13・14回	精神科リハビリテーションについて	講義	前回の資料と教科書P118～P128を読んでおくこと	180分
15回	今までの振り返り	講義	今までの資料や教科書を復習しておくこと	90分

<b>【科目名】</b>	薬理学		<b>【担当教員】</b>	桑島 治博
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(臨床医学)	<b>【授業コード】</b>	2-12-0077-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。 解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。 (フィードバック方法) 最終コマ講義の際に演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原則を理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
①用量と薬理作用の関係を説明する。 ②薬物の作用機序を説明する。 ③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。 ④薬物の副作用・有害作用を説明する。 ⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
イラストで理解するかみくだき薬理学(第2版) 南山堂 ¥2,300				
<b>【参考書】</b>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。 ・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	0	20	0	0	0	0	100
評価 指標	取り込む力・知識	80	0	10	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	0	0	5	0	0	0	0	5
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	5	0	0	0	0	5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	薬理学の基礎知識 (1)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
3. 4	薬理学の基礎知識 (2)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
5. 6	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
7. 8	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
9. 10	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
11. 12	アレルギー、炎症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
13. 14	悪性腫瘍に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30
15	感染症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。	30

【科目名】	基礎運動学 I		【担当教員】	金子 巧
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0010-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kaneko@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学, 生理学と関係の深い分野です. 1年次に学習した解剖学, 生理学の内容を復習してください.</li> </ul> <p>※この科目は実務経験を有する教員が担当します. 臨床で心身機能の維持回復に関わるリハビリテーションに従事してきた経験から, 身体運動に関する基本的事項について講じます.</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各自, 教科書などの教材を利用し, 事前学習および復習を行うこと.</li> <li>試験結果について, 解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません.</li> <li>試験後, 必要に応じて試験内容を中心とした補講(試験内容の解説を含む)を行います.</li> </ul>				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です. 本講義では, 運動に関する用語や, 身体運動に関する基本的概念を学びます. また, 身体の構造や機能に関し, 解剖学や生理学, 物理学の知識を統合し, 運動の捉え方を学習します.</li> </ul> <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2, 3</p>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義を中心に, 身体運動に関するの知識を深めます. また小テストを行い, 学習を深めます.</li> </ul>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し, 記述・説明することができる</li> </ul>				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し, 記述・説明することができる</li> <li>姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>弓岡光徳/溝田勝彦/村田伸 監訳, エッセンシャル・キネシオロジー 原著第3版, 南江堂, 2020年, ¥5,800 (税別)</li> </ul>				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>中島雅美, 他編著, PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版, 医歯薬出版, 2016年, ¥4,000 (税別)</li> <li>中村隆一, 他, 基礎運動学 第6版, 医歯薬出版, 2003年, ¥6,800 (税別)</li> </ul>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従います. 出席点は評価に含まれません.</li> <li>小テスト, 筆記試験を総合的に評価します.</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	・講義ガイダンス ・解剖学, 生理学の確認	講義, 小テスト	解剖学, 生理学の復習	60
3, 4	・第1章 キネシオロジーの基本原則	講義, 小テスト	・教科書P1~19 ・解剖学, 生理学, 物理学の復習	60
5, 6	・運動学総論①	講義, 小テスト	・参考書P2~29 ・解剖学, 生理学の復習 ・講義内容の復習	60
7, 8	・運動学総論②	講義, 小テスト	・参考書P31~56 ・解剖学, 生理学の復習 ・講義内容の復習	60
9, 10	・運動学総論③	講義, 小テスト	・参考書P57~68 ・解剖学, 生理学の復習 ・講義内容の復習	60
11, 12	・上肢、下肢について	講義、小テスト	・参考書P72~82、122~131 ・解剖学, 生理学の復習 ・講義内容の復習	60
13, 14	・体幹、姿勢について	講義、小テスト	・参考書P166~170、202~210 ・解剖学, 生理学の復習 ・講義内容の復習	60
15	・歩行、学習と記憶について	講義、小テスト	・参考書P212~216、244~248 ・解剖学, 生理学の復習 ・講義内容の復習	60



<b>【科目名】</b>	認知症		<b>【担当教員】</b>	伊林 克彦
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	<b>【授業コード】</b>	2-14-0041-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) 認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
講義資料配布				
<b>【参考書】</b>				
田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ¥4,725				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			80					20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力		80						80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1. 2	認知症とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3. 4	認知症になる原因は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5. 6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7. 8	認知症者の心の内側は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9. 10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11. 12	認知症者の脳の画像は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13. 14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

<b>【科目名】</b> 知覚・認知心理学 I		<b>【担当教員】</b> 中川 明仁	
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	<b>【授業コード】</b> 2-14-0055-3	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件) 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的) 人の情報処理の過程(感覚・知覚・認知・思考等)について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性; R-1, 2, 3			
(方法) 毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 人の情報処理の過程(感覚・知覚・認知・思考等)の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。			
<b>【行動目標(SB0)】</b> 人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 授業資料を毎回配布します。			
<b>【参考書】</b> 箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房 (2,600円+税) 森 敏昭他 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 (2,400円+税) 御領 謙他 『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社 (2,950円+税)			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小レポートと定期試験を実施する。 ・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてまとめる	120
3・4	感覚の測定(1)	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異についてまとめる	120
5・6	感覚の測定(2)	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまとめる	120
7・8	感覚の測定(3)	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法についてまとめる	120
9・10	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行き知覚および聴覚の仕組みについてまとめる	120
11・12	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達のプロセスについてまとめる	120
13・14	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

<b>【科目名】</b> 知覚・認知心理学Ⅱ		<b>【担当教員】</b> 中川 明仁	
<b>【授業区分】</b> 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	<b>【授業コード】</b> 2-14-0060-3	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件) 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的) 人の情報処理の過程(感覚・知覚・認知・思考等)について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性; R-1, 2, 3			
(方法) 毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 人の情報処理の過程(感覚・知覚・認知・思考等)の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。			
<b>【行動目標(SB0)】</b> 人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 授業資料を毎回配布します。			
<b>【参考書】</b> 箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房 (2,600円+税) 森 敏昭他 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 (2,400円+税) 御領 謙他 『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社 (2,950円+税)			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小レポートと定期試験を実施する。 ・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	記憶(1)	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてま とめる	120
3・4	記憶(2)	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてま とめる	120
5・6	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまと める	120
7・8	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、 「概念」と言語との関連をまとめる	120
9・10	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理 についてまとめる	120
11・1 2	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およ びメタ認知の内容についてまとめる	120
13・1 4	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序につい てまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】 学習・言語心理学 I		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0495-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の心及び行動の基本的な仕組みと他者への適切な対応について講義していきます。人は誕生～生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。 講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。		
<b>【講義概要】</b> (目的) ①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
<b>【行動目標(SBO)】</b> 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊(編著)／サイエンス社／¥2,805(税込)		
<b>【参考書】</b> 公認心理師の基礎と実践⑧ 学習・言語心理学／野島一彦・繁樹算男監修／遠見書房／2,600円＋税 学習心理学への招待(新心理学ライブラリ)／篠原彰一著／サイエンス社／¥2,520 メイザーの学習と行動／ジェームズ E メイザー(著)／二瓶社(2008/06)／¥4,200		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論  古典的条件づけ ・条件づけの典型例 条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p. 1-14  指定教科書p. 15-24	20
3. 4	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去 汎化と弁別	講義	指定教科書p. 24-35	20
5. 6	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ 実験神経症 行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 36-42	20
7. 8	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例 オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p. 43-64 指定教科書p. 149-154	20
9. 10	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p. 64-74	20
11. 12	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 74-92	20
13. 14	社会的学習 ・社会的学習とは何か 模倣学習 観察学習	講義	指定教科書p. 125-134	20
15	社会的学習 ・攻撃行動 罰の効果 いじめの発生	講義	指定教科書p. 134-144	20



【科目名】 学習・言語心理学Ⅱ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0495-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の心及び行動の基本的な仕組みと他者への適切な対応について講義していきます。人は誕生～生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 講義後にレポートを課す場合があります。また、各テーマに関連する心理テストを授業時間内に随時実施していきます。		
<b>【講義概要】</b> (目的) ①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-1 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当者から資料を受け取り、必ず参照してください。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
<b>【一般教育目標(GI0)】</b> 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習障害及び言語障害のある人に対し、適切な指導及び支援を実施できる。		
<b>【行動目標(SB0)】</b> 人間の行動は変化することを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊(編著)／サイエンス社／¥2,805(税込)		
<b>【参考書】</b> 公認心理師の基礎と実践⑧ 学習・言語心理学／野島一彦・繁樹算男監修／遠見書房／2,600円＋税 学習心理学への招待(新心理学ライブラリ)／篠原彰一著／サイエンス社／¥2,520 メイザーの学習と行動／ジェームズ E メイザー(著)／二瓶社(2008/06)／¥4,200		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	社会的学習 ・自己効力感 (self-efficacy) 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p. 144-148	20
3. 4	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件	講義 一部演習	指定教科書p. 93-102	20
5. 6	技能学習 ・技能の記憶 技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p. 102-124	20
7. 8	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p. 175-190	20
9. 10	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能 (脳機能画像)	講義	指定教科書p. 184-199	20
11. 12	言語障害への支援 ・失語症 (Wernicke型、Broca型) ・失読・失書 (alexia and agraphia) ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
13. 14	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用	講義	指定教科書p. 149-174	20
15	まとめ	講義		20

<b>【科目名】</b>	公認心理師の職責 I		<b>【担当教員】</b>	大矢 薫
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0000-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~金、火除く)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。          本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。          講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。          小テスト、レポートなどは原則として返却しません。          小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①~⑧を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。          ①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保          ④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務          ⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携          当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。          公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>公認心理師の役割について理解する。          公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。          自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。          社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。</p>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<p>心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。          守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。          保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。          多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円+税)				
<b>【参考書】</b>				
野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円+税)				
松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円+税)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。          成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。          出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	公認心理師とはどのような資格か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理支援に必要な技能（コンピテンシー）	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理支援の専門職になるために	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理支援の専門職として働くために	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	公認心理師の今後の展開	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	公認心理師の法的義務と倫理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】	公認心理師の職責Ⅱ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。          本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。          講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。          小テスト、レポートなどは原則として返却しません。          小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①~⑧を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。          ①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保          ④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務          ⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携          当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。          公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>公認心理師の役割について理解する。          公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。          自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。          社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。          守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。          保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。          多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円+税)				
【参考書】				
野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円+税)				
松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円+税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。          成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。          出席点は評価に含まれません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	情報の適切な取り扱い	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	チームや地域で連携して働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	保健医療分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	福祉分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	教育分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野で働く	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

<b>【科目名】</b>	心理学実験 I		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0030-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	30	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください)。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。				
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2				
当該科目と学位授与方針との関連性; R-2				
(方法)				
15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。				
データの処理ができる。				
考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回の実験ごとに資料を配布する。				
<b>【参考書】</b>				
実験・実習で学ぶ心理学の基礎/認定心理士資格認定委員会編集/日本心理学会/2,700円(税込)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。				
「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション ●実験1 (鏡映描写) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	●実験1 (鏡映描写) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	●実験1 (鏡映描写) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	●実験2 (触二点閾) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	●実験2 (触二点閾) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	●実験2 (触二点閾) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	●実験3 (錯視) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	●実験3 (錯視) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120



17・1 8	●実験3（錯視） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	●実験4（記憶） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
21・2 2	●実験4（記憶） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
23・2 4	●実験4（記憶） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	●実験5（パーソナルスペース） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
27・2 8	●実験5（パーソナルスペース） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
29・3 0	●実験5（パーソナルスペース） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

<b>【科目名】</b>	心理学実験Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0035-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	30	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください)。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。				
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2				
当該科目と学位授与方針との関連性; R-2				
(方法)				
15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。				
データの処理ができる。				
考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<b>【参考書】</b>				
実験・実習で学ぶ心理学の基礎/認定心理士資格認定委員会編集/日本心理学会/2,700円(税込)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	●実験1 (ストループテスト) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	●実験1 (ストループテスト) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	●実験1 (ストループテスト) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	●実験2 (社会的促進) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	●実験2 (社会的促進) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	●実験2 (社会的促進) レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	●実験3 (コミュニケーション) 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	●実験3 (コミュニケーション) データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・1 8	●実験3（コミュニケーション） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	●実験4（調査法） 実験の説明、データ収集	講義 演習	調査データをまとめる	120
21・2 2	●実験4（調査法） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	調査データをまとめる	120
23・2 4	●実験4（調査法） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	●実験5（観察法） 実験の説明、データ収集	講義 演習	観察データをまとめる	120
27・2 8	●実験5（観察法） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	観察データをまとめる	120
29・3 0	●実験5（観察法） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

<b>【科目名】</b> 感情・人格心理学 I		<b>【担当教員】</b> 中川 明仁	
<b>【授業区分】</b> 専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b> 5-30-0050-1	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
心理学における人格の位置づけ、およびの諸理論について理解することを目指す。具体的には遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性; R-1, 2, 3			
(方法)			
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
人格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における人格の位置づけについて理解することを目指す。			
<b>【行動目標(SB0)】</b>			
古典的な人格理論について説明できる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
授業資料を毎回配布します。			
<b>【参考書】</b>			
・榎本 博明他 『パーソナリティ心理学—人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』 有斐閣アルマ (2,200円+税)			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</li> <li>・小テストと定期試験を実施する。</li> <li>・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。</li> <li>・出席点は評価に含みません。</li> </ul>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人格に関する諸理論(1) 類型論と特性論	講義	講義プリントの復習 類型論と特性論の違いをまとめる	120
3・4	人格に関する諸理論(2) 5因子モデル	講義	講義プリントの復習 5因子理論の内容についてまとめる	120
5・6	人格の形成過程(1) 環境要因	講義	講義プリントの復習 人格形成に影響する環境要因につ いてまとめる	120
7・8	人格の形成過程(2) 遺伝要因	講義	講義プリントの復習 人格形成に影響する遺伝要因につ いてまとめる	120
9・10	個人差とその測定(1) 質問紙法	講義	講義プリントの復習 個人差を測定するための質問紙法に ついてまとめる	120
11・12	個人差とその測定(2) 投影法	講義	講義プリントの復習 個人差を測定するための投影法につ いてまとめる	120
13・14	パーソナリティ障害	講義	講義プリントの復習 パーソナリティ障害の概要につい てまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

<b>【科目名】</b> 感情・人格心理学Ⅱ		<b>【担当教員】</b> 中川 明仁	
<b>【授業区分】</b> 専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b> 5-30-0055-1	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	a.nakagawa@nur.05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
心理学における感情の位置づけ、およびその諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性; R-1, 2, 3			
(方法)			
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
感情の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情の位置づけについて理解することを目指す。			
<b>【行動目標(SBO)】</b>			
感情喚起についての理論について説明できる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
授業資料を毎回配布します。			
<b>【参考書】</b>			
・大平 秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ (1,900円+税)			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。</li> <li>・小テストと定期試験を実施する。</li> <li>・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。</li> <li>・出席点は評価に含みません。</li> </ul>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	感情喚起に関する機序(1) 抹消起源説と中枢起源説	講義	講義プリントの復習 抹消起源説と中枢起源説の違いをまとめる	120
3・4	感情喚起に関する機序(2) 認知的評価理論	講義	講義プリントの復習 認知的評価理論をまとめる	120
5・6	感情の発達と個人差	講義	講義プリントの復習 感情が発達するプロセスと発達過程で生じる個人差をまとめる	120
7・8	感情と表出行動	講義	講義プリントの復習 感情が行動として表出される際の概要をまとめる	120
9・10	感情と認知	講義	講義プリントの復習 感情と認知との関連をまとめる	120
11・12	感情制御と動機付け	講義	講義プリントの復習 感情制御と動機付けとの関連をまとめる	120
13・14	感情と心身の健康	講義	講義プリントの復習 感情に関わる種々の病理についてまとめる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義プリントの復習	120



【科目名】 障害者・障害児心理学 I		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 U52754	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業科目です。大学での障害者(児)心理学に関する教育経験、医療・地域保健機関において言語・高次脳機能障害や精神機能障害等へのリハビリテーションに従事してきた臨床経験から、障害者・障害児の各疾患への理解とその支援法について講じていきます。 将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 講義後にレポートを課す場合があります。		
<b>【講義概要】</b> (目的) 障害について、医学・生理学的側面及び心理・社会的側面から理解し、適切な支援のあり方を考える。 日常生活、就学、就労、ライフイベント等において、障害にはどのような障壁があるのかを考え、理解する。 バリアフリー社会、共生社会を実現するため、合理的配慮、適切な心理支援とは何かを考え、実践していく。 関連法規や制度を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性; R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当者から資料を受け取り、必ず参照してください。 理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 身体障害(感覚障害、運動障害、内部障害)について概説できる。 障害児・者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。		
<b>【行動目標(SB0)】</b> 多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。		
<b>【参考書】</b> 野島一彦、繁榊算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房 (2020/3/24), ¥ 2,860		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	0		10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	障害とは何か 身体障害、知的障害、精神障害 障害者基本法等の規定に見る「障害」の範囲	講義	障害の分類 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF)	20
2	障害児・障害者に対する支援(基本) 障害者差別解消法 障害者総合支援法 発達障害者支援法	講義	障害受容 二次障害 エビデンスに基づく障害支援	20
3	身体障害①_視覚障害 障害の理解	講義	盲 弱視	20
4	身体障害①_視覚障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	点字 歩行 バーバリズム ブラインディズム	20
5	身体障害②_聴覚障害・平衡機能障害 障害の理解	講義	聾 難聴(伝音性/感音性)	20
6	身体障害②_聴覚障害・平衡機能障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 演習PBL(事例検討) を含む	言語の発達 コミュニケーション障害 補聴器 人工内耳 手話	20
7	身体障害③_音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 障害の理解	講義	発声・発語器官 構音障害 脳機能と言語 吃音 発達障害	20
8	身体障害③_音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 演習PBL(支援法 を検討する)を 含む	食べる機能の障害	20

9	乳幼児における障害の早期発見とその支援	講義	母子保健 乳幼児健診 早期発見と療育 保育園・幼稚園での支援	20
10	特殊教育から特別支援教育へ 理念・制度の見直し	講義	生活/就学支援への歴史的経緯を知る	20
11	身体障害④_肢体不自由 障害の理解	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性まひ</li> <li>・随伴障害</li> <li>・重複障害、重症心身障害</li> </ul>	20
12	身体障害④_肢体不自由 適切な支援（家族支援を含む）	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期療育</li> <li>・自立支援</li> <li>・訪問教育</li> </ul>	20
13	身体障害⑤_内部障害 障害の理解と適切な支援（家族支援を含む）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害</li> <li>・膀胱、直腸、小腸の機能の障害</li> <li>・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害</li> </ul>	20
14	身体障害⑤_内部障害 適切な支援（家族支援を含む）	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア</li> <li>・ホスピタリズム</li> <li>・ターミナル・ケア</li> </ul>	20
15	まとめ	講義	1 - 14コマ目の重要事項を理解する	20

【科目名】 障害者・障害児心理学Ⅱ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 U52755	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業科目です。大学での障害者(児)心理学に関する教育経験、医療・地域保健機関において言語・高次脳機能障害や精神機能障害等へのリハビリテーションに従事してきた臨床経験から、障害者・障害児の各疾患への理解とその支援法について講じていきます。 将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 講義後にレポートを課す場合があります。		
<b>【講義概要】</b> (目的) 障害について、医学・生理学的側面及び心理・社会的側面から理解し、適切な支援のあり方を考える。 日常生活、就学、就労、ライフイベント等において、障害にはどのような障壁があるのかを考え、理解する。 バリアフリー社会、共生社会を実現するため、合理的配慮、適切な心理支援とは何かを考え、実践していく。 関連法規や制度を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性; R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドPDF資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 知的障害、発達障害、精神障害及び高次脳機能障害について概説できる。 障害児・者が生きて行く上での心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 障害児・者の家族や身近な人への支援についての視点ももつことができる。 「共生社会」の実現に向け、「障害者総合支援法」の理念及び内容の主旨を理解できる。		
<b>【行動目標(SBO)】</b> 多種多様な障害を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から理解し、説明することができる。 障害のある人を通して、社会生活上で生じてくるさまざまな問題を理解し、適切な支援ができる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料を配布します。		
<b>【参考書】</b> 野島一彦、繁榊算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房 (2020/3/24), ¥ 2,860		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	知的障害 障害の理解	講義	知的障害の定義 知能検査 知的障害の分類 適応行動の検査	20
2	知的障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 演習PBL(事例検 討)を含む	療育手帳 知的障害者更生相談所	20
3	発達障害の理解と適切な支援① 広汎性発達障害 ・自閉 ・アスペルガー症候群	講義	障害の特徴 ソーシャルスキルトレーニング	20
4	発達障害の理解と適切な支援② 注意欠陥多動性障害(AD/HD) レット症候群 小児期崩壊性障害 (強度)行動障害	講義	不注意・多動性・衝動性 アセスメント 基本的な対応	20
5	発達障害の理解と適切な支援③ 学習障害(LD)	講義	LDの定義 認知処理特性に応じた教育法	20
6	発達障害の理解と適切な支援④ 家族支援と適切な養育 ペアレントトレーニング	講義 演習PBL(事例検 討)を含む	ペアレントトレーニングの基本を理 解する	20
7	精神障害の理解① 精神障害の定義(範囲) 適切な心理・社会的対応	講義	精神障害の定義(範囲) ・統合失調症 ・気分障害 ・非定型精神病	20
8	精神障害の理解② 精神障害の定義(範囲) 適切な心理・社会的対応	講義	・てんかん ・中毒精神病 ・器質性精神障害 ・発達障害 ・その他	20

9	精神障害への社会保障制度① 「社会福祉」「公的扶助」「保健医療・公衆衛生」	講義	精神障害者保健福祉手帳 障害等級判定基準	20
10	精神障害への社会保障制度② 「社会保険」による障害年金制度	講義 演習PBL（事例検討）を含む	障害等級判定基準による公的生活 （経済的）支援制度	20
11	「大人の発達障害」とは 「高次脳機能障害」とは	講義	各障害の「定義」を理解し、適切な 対応・合理的配慮を想定することが できる。	20
12	高次脳機能障害者への「自動車運転再開」	講義 演習PBL（事例検討）を含む	・新潟県内で「運転再開リハ」に取 組む実態を知る	20
13	「就労移行支援」 SST（社会生活技能訓練）	講義 演習PBL（事例検討）を含む	障害者への合理的配慮 自立支援 社会参加	20
14	「就労継続支援A型/B型」	講義 演習PBL（事例検討）を含む	障害者雇用 障害者への合理的配慮 自立支援 社会参加	20
15	まとめ 「共生社会」の実現に向けて 「障害者総合支援法」	講義	共生社会の課題を考える 障害者総合支援法の理念を理解する	60

<b>【科目名】</b> 心理的アセスメント I		<b>【担当教員】</b> 姜 静愛
<b>【授業区分】</b> 専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b> 5-30-0090-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	c. kan@nur. ac. jp
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15コマ	(オフィスアワー) 授業にて知らせる
<b>【注意事項】</b>		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
<p>「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておくこと、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。</p>		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<p>スライドによる授業を行う。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 試験のフィードバックは、試験後に行う。また、小テストのフィードバックは次の回の講義で行う。</p>		
<b>【講義概要】</b>		
(目的)		
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、④適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>		
(方法)		
<p>スライドによる解説を行う。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>		
<p>心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。</p>		
<b>【行動目標(SBO)】</b>		
<p>心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。</p>		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>		
特になし		
<b>【参考書】</b>		
下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版 (3, 200円＋税)		
<b>【評価に関わる情報】</b>		
(評価の基準・方法)		
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 小テストと定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評 価 指 標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理的アセスメントの目的及び倫理① 心理的アセスメントの目的	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理的アセスメントの目的及び倫理② 心理的アセスメントの倫理	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理的アセスメントの観点及び展開① エビデンスベースト・アプローチ	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理的アセスメントの観点及び展開② 生物心理社会モデル	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心理的アセスメントの観点及び展開③ 機能分析、ケースフォーミュレーション	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
11-12	心理的アセスメントの観点及び展開④ 保健医療、福祉の分野における心理的アセスメン トの実際	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心理的アセスメントの観点及び展開⑤ 教育、司法・犯罪、産業・労働の分野における心 理的アセスメントの実際	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	講義の復習をする。	120分



【科目名】 心理的アセスメントⅡ		【担当教員】 姜 静愛
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 5-30-0095-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	c. kan@nur. ac. jp
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 授業にて知らせる
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。  (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回スライドを用いた授業を行います。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 試験のフィードバックは、試験後に行う。また、小テストのフィードバックは次の回の講義で行う。		
<b>【講義概要】</b> (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開 ③心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)、④適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) スライドを用いた講義を行う。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。		
<b>【行動目標(SBO)】</b> 心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 特になし。		
<b>【参考書】</b> 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版(3,200円+税)		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		44	56						100
評価指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	面接法について① 構造化面接・非構造化面接	講義	講義 関連する文献を読む	240分
3-4	面接法について② 心理面接の進め方、面接の中で用いられる技法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
5-6	観察法について① 自然観察法と実験観察法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
7-8	観察法について② 参与観察法と非参与観察法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
9-10	心理検査法について① 質問紙法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
11-12	心理検査法について② 投映法・作業検査法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
13-14	検査法について③ 知能検査・発達検査	講義	講義 関連する文献を読む	240分
15	まとめ	講義	講義 関連する文献を読む	120分



<b>【科目名】</b> 心理学的支援法 I		<b>【担当教員】</b> 姜 静愛
<b>【授業区分】</b> 専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b> 5-30-0100-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~水・金)
<b>【注意事項】</b>		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。          本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。本講義の内容は心理学的支援法Ⅱと連続しています。</p>		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<p>毎回、講義資料を配布します。          講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。          小テストや試験などのフィードバックは、適宜行います。</p>		
<b>【講義概要】</b>		
(目的)		
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑥を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。          ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義          ③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮          ⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育          当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>		
(方法)		
<p>毎回、講義資料を配布する。          心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>		
<p>心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。          良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。          心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。</p>		
<b>【行動目標(SBO)】</b>		
<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。          訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。          心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。</p>		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>		
<p>毎回、講義資料を配布する。</p>		
<b>【参考書】</b>		
<p>適宜紹介する。</p>		
<b>【評価に関わる情報】</b>		
(評価の基準・方法)		
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。          成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。          出席点は評価に含みません。</p>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション, 心理的支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	精神分析・力動的心理療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	芸術療法・表現療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	行動分析	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	認知療法・認知行動療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	ストレスと心の健康	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

<b>【科目名】</b>	心理学的支援法Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	姜 静愛
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0105-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~水・金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。          本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野での心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>毎回、講義資料を配布します。          講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。          小テストや試験などのフィードバックは、適宜行います。          本講義の内容は心理学的支援法Ⅰと連続しています。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑥を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。          ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義          ③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮          ⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育          当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。          心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。          良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。          心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。</p>				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
<p>代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。          訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。          心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p>				
<b>【参考書】</b>				
<p>適宜紹介する。</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。          成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。          出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション, パーソンセンタード・アプローチ	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	集団療法・グループカウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	家族療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	カウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	技法選択のエビデンス	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	コミュニティアプローチ, 訪問・地域支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	コミュニケーション, プライバシー, 支援者支援, 健康教育	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

<b>【科目名】</b>	動作法		<b>【担当教員】</b>	姜 静愛
<b>【授業区分】</b>	専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b>	5-31-0065-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	c. kan@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 授業にて知らせる
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野で心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>身体を使った体験的な学習も行うので、動きやすい服装で受講してください。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テストやレポートなどのフィードバックは、適宜行います。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>動作法の知識・技術を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p> <p>動作法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
動作法の理論と活用の仕方を理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
動作法の学習成果を実践できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回、講義資料を配布する。				
<b>【参考書】</b>				
<p>成瀬悟策 『動作療法 全く新しい心理治療の理論と方法』 誠信書房</p> <p>大野清志・村田茂(編著) 『動作法ハンドブック』</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含みません。</p>				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			35	55				10	100
評価指標	取り込む力・知識		35	25					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション・動作法とはなにか	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
3-4	動作と動作法	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
5-6	動作と動作法 2	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
7-8	動作療法におけるインテーク	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
9-10	主動感と動作感の調整・調和療法	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
11-12	動作療法のプロセス	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
13-14	動作療法における援助	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	180分

【科目名】	チーム医療学Ⅱ		【担当教員】	高橋 明美、伊藤 渉、藤本 聡、長谷川 裕
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0430-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金：8：30～17：00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からチーム医療について講じていく。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習を行い理解を深めること</li> <li>・演習やグループ討論を行うので休まないこと</li> </ul>				
【講義概要】				
(目的)				
対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。				
(方法)				
実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例(仮想事例)を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。</li> <li>・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。</li> <li>・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。</li> <li>・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない。 必要に応じて資料を配付する。				
【参考書】				
指定しない。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は、レポートにおける取組む力・知識・思考・推論・創造の力を総合的に評価する。</li> <li>・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。</li> </ul>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・科目の流れについてのオリエンテーション ・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その1）－	・講義 ・討論 (担当：藤本)	・リハ専門職、関連専門職について 確認する ・討論のまとめをする	20 20
2	・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その2）－	・課題配信 ・演習 (担当：藤本)	・事例について、災害時の専門職連 携についてまとめる	20 20
3	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察す る（その1：診療現場）－	・課題配信 ・演習 (担当：長谷川)	・保健・福祉領域を含めた専門職を 幅広く調べる ・症例に対する連携をまとめる	20 20
4	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察す る（その2：訪問支援）－	・課題配信 ・演習 (担当：長谷川)	・前回の連携について確認する ・症例に対する連携をまとめる	20 20
5	・専門職連携の実際例から学ぶ①	・講義 ・演習 (担当：伊藤)	・事前に提示する症例に対して確認 しておく ・提示された症例に対する専門職連 携についてまとめる	20 20
6	・専門職連携の実際例から学ぶ②	・講義 ・演習 (担当：伊藤)	・前回の連携について確認する ・提示された症例に対する専門職連 携についてまとめる	20 20
7	・病院や施設における専門職連携の実際について 知る	・講義 ・討論 ・発表 (担当：高橋)	病院や施設における専門職連携につ いて確認する ・症例に対する連携方法をまとめ、 発表する	20 20
8	・終末期医療における専門職連携を考える ・まとめ	・講義 ・討論 (担当：高橋)	・終末期医療の現状について調べる ・科目のまとめ	20 20

<b>【科目名】</b>	心理測定法 I		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	<b>【授業コード】</b>	2-14-0045-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性： S-1、R-2				
(方法)				
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法Ⅱに向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定を実践することで知識の定着を図る。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回の授業で資料を配布する				
<b>【参考書】</b>				
山田弘幸(編・著) / 言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」 / 医歯薬出版 / 定価 4,320円(税込) 市川伸一編著 / 新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」 / サイエンス社 / 定価 2,835円(税込)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	120
3・4	測定の水準(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	120
5・6	精神物理学的測定法(1)(刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異)	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	120
7・8	精神物理学的測定法(2)(調整法、極限法)	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	120
9・10	精神物理学的測定法(3)(恒常法、マグニチュード推定法)	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	120
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	120
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

<b>【科目名】</b>	心理測定法Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	<b>【授業コード】</b>	2-14-0045-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性： S-1、R-2				
(方法)				
心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身に着けるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回の授業で資料を配布する				
<b>【参考書】</b>				
山田弘幸(編・著)／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円(税込) 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円(税込)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	尺度構成法(1) 直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	120
3・4	尺度構成法(2) 間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法が説明できる	120
5・6	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセスを説明できる	120
7・8	心理統計学(1) 度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	120
9・10	心理統計学(2) 散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	120
11・12	心理統計学(3) 共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	120
13・14	心理統計学(4) 統計的仮説検定 t検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

<b>【科目名】</b>	産業・組織心理学		<b>【担当教員】</b>	大矢 薫
<b>【授業区分】</b>	専門分野(公認心理師養成科目)	<b>【授業コード】</b>	5-30-0140-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~金、火除く)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「心理的アセスメント」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。  講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。  小テスト、レポートなどは原則として返却しません。  小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①~②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。  ①職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法  ②組織における人の行動  当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>教科書の内容に沿って講じる。  公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について理解する。  組織における人の行動について理解する。</p>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<p>職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について説明できる。  組織における人の行動について概説できる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
加藤容子・三宅美樹 編 『産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 (2,200円+税)				
<b>【参考書】</b>				
新田泰生 編 『産業・組織心理学』 遠見書房 (2,600円+税)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。  成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。  出席点は評価に含まれません。</p>				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	産業・組織心理学を学ぶ意義 組織とは	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	組織における労働契約・法規 キャリア	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ワーク・モチベーションと組織コミットメント リーダーシップ	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	職場の人間関係 職業性ストレスとメンタルヘルス	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	作業と安全衛生 産業・組織心理臨床の実際	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	産業精神保健 ストレスチェック制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	多様性に配慮した支援 組織開発	講義	教科書を利用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

<b>【科目名】</b> 精神障害生活支援論		<b>【担当教員】</b> 向田 怜史	
<b>【授業区分】</b> 専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b> 5-31-0005-2	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15コマ(45分)	(オフィスアワー) 火・木 12:40-13:30	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
精神疾患を持つ方への支援をするためには、当事者の理解や制度に関するこの理解は必須です。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていきます。 医療・福祉分野の話題、特に精神保健福祉分野についての講義を展開していきます。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
医療・福祉分野の就職を考えている学生は特に積極的に参加してください。 レポートについては可能な限り返却します。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的)			
精神疾患をもつ方への支援や方法、制度について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2, 3			
(方法)			
講義形式で行う。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>			
精神に疾患を抱えている方への生活支援や制度について理解する。			
<b>【行動目標(SBO)】</b>			
障害の定義について説明できる。 障害を抱えている当事者が利用する生活上の問題や現状について説明できる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>			
精神保健福祉士シリーズ8 精神障害者の生活支援システム[第3版]、弘文堂、2018年、2,700円(税別)			
<b>【参考書】</b>			
必要に応じて紹介します。			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験、レポートを中心的な評価基準とする。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	35		10					45
	思考・推論・創造の力	35		10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	・精神障害者の生活支援とは何か 精神障害者とは 障害の概念について	講義	教科書P2-12の予習	180
3-4	・精神障害者の基本的理解 精神障害者の定義とは	講義	前回の復習 教科書P16-P30の予習	180
5-6	・精神疾患について 統合失調症・気分障害について ICDとDSMの違いについて	講義	前回の復習 精神疾患についての予習	180
7-8	・精神障害者の生活 精神障害者の生活実態と取り巻く環境について	講義	前回の復習 予習教科書P32-52を読んでおく	180
9-10	・精神障害者の生活と人権 権利擁護・居宅支援・就労支援について	講義 課題	前回の復習 予習教科書P54-109、P112-139を 読んでおく	180
11-12	・精神障害者への地域でのサポート 自助グループ・地域支援について	講義	前回の復習 予習教科書P142-165を読んでおく	180
13-14	・精神障害者への地域でのサポート 医療機関や行政機関の役割について	講義	前回の復習 予習教科書P166-183を読んでおく	180
15	・今までの振り返り	講義	前回の復習	90

<b>【科目名】</b>	リハビリテーション心理学 I		<b>【担当教員】</b>	加藤 真由美
<b>【授業区分】</b>	専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b>	5-31-0010-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	ma. kato@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 11:00~13:30(水~金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション概論について知識を有していること。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者はリハビリテーション心理学 I とリハビリテーション心理学 II を併せて履修登録すること。 本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションなど演習を多く取り入れる。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性 ; A-3 当該科目と学位授与方針との関連性 ; R-1, 2, 3				
(方法) 講義およびディスカッション。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
特に指定しない。テキストとなる資料を配布する。				
<b>【参考書】</b>				
講義中随時指示する。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーション心理学とは	講義	配布資料を読む	240
3-4	リハビリテーション心理学の歩み	講義	配布資料を読む	240
5-6	障害の構造と理解	講義	配布資料を読む	240
7-8	障害受容について	講義	配布資料を読む	240
9-10	障害適応へのアプローチ(1) 心理的問題の要因	講義	配布資料を読む	240
11-12	障害適応へのアプローチ(2) 当事者と家族	講義	配布資料を読む	240
13-14	障害適応へのアプローチ(3) 転換性障害	講義	配布資料を読む	240
15	まとめ・課題レポート	講義	全配布資料を読む	240

<b>【科目名】</b>	リハビリテーション心理学Ⅱ		<b>【担当教員】</b>	加藤 真由美
<b>【授業区分】</b>	専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b>	5-31-0015-1	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	ma. kato@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 11:00~13:30(水~金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション概論について知識を有していること。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者はリハビリテーション心理学Ⅰとリハビリテーション心理学Ⅱを併せて履修登録すること。 本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションなど演習を多く取り入れる。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1, 2, 3				
(方法) 講義およびディスカッション。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な、障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
特に指定しない				
<b>【参考書】</b>				
講義中随時指示する。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 講義内で行う成果発表、学期末課題レポートを中心に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	60				100
評価 指標	取り込む力・知識			20	20				40
	思考・推論・創造の力			20	20				40
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーションにおける心理学的対応(1) 災害心理支援	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
3-4	リハビリテーションにおける心理学的対応(2) 症例別アプローチ	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
5-6	リハビリテーションにおける心理学的対応(3) 症例別アプローチ	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
7-8	リハビリテーションにおける心理学的対応(4) 症例別アプローチ	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
9-10	リハビリテーションにおける心理学的対応(5) 症例別アプローチ	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
11-12	リハビリテーションにおける心理学的対応(6) 症例別アプローチ	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
13-14	リハビリテーションにおける心理学的対応(7) 症例別アプローチ	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240
15	まとめ・グループ発表	講義、ディス カッション	配布資料を読む	240

<b>【科目名】</b> ポジティブ心理学 I		<b>【担当教員】</b> 大矢 薫
<b>【授業区分】</b> 専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b> 5-31-0020-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~金、火除く)
<b>【注意事項】</b>		
(受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。		
<b>【講義概要】</b>		
(目的) ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性 ; A-1, 2、R-1, 2, 3		
(方法) 教科書の内容に沿って講じます。 ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> ポジティブ心理学の理論を理解する。		
<b>【行動目標(SB0)】</b> ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店 (1,800円+税)		
<b>【参考書】</b> 堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社 (2,400円+税) J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房 (2,700円+税) イローナ・ボニウェル 『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』 国書刊行会 (1,600円+税)		
<b>【評価に関わる情報】</b>		
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	ポジティブ心理学とは何か	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	幸福感	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ウェルビーイング	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ポジティブ感情	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	フロー体験	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	楽観主義 (オプティミズム)	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	情動知能	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		ポジティブ心理学Ⅱ	【担当教員】		大矢 薫
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0025-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~金、火除く)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テスト、レポートなどは原則として返却しません。</p> <p>小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>					
(方法)					
<p>教科書の内容に沿って講じます。</p> <p>ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<p>ポジティブ心理学の理論を理解する。</p>					
【行動目標(SB0)】					
<p>ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。</p>					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店 (1,800円+税)</p>					
【参考書】					
<p>堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社 (2,400円+税)</p> <p>J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房 (2,700円+税)</p> <p>イローナ・ボニウェル 『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』 国書刊行会 (1,600円+税)</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含まれません。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60	40					100
評価指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	自己決定理論	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	セルフ・コンパッション	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ポジティブな特性	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	レジリエンス	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心的外傷後成長 (PTG)	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	生きる意味	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	ポジティブな組織	講義	教科書を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

<b>【科目名】</b>	認知行動療法		<b>【担当教員】</b>	姜 静愛
<b>【授業区分】</b>	専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b>	5-31-0030-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	y.wada@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~水・金)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野で心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>教科書の内容に沿って講じていきます。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テストやレポートなどのフィードバックは、適宜行います。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>認知行動療法の考えを対人場面と自分のセルフケアに活かすことができることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性 ; A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>スライドを用いて解説を行う。</p> <p>認知行動療法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<p>認知行動療法の理論の概観を理解する。</p>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<p>認知行動療法の技術を一部実践できる。</p>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
<b>【参考書】</b>				
<p>授業にて適宜紹介を行う。</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	55				10	100
評価指標	取り込む力・知識		35	25					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	認知行動療法とはなにか	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	認知療法	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	行動療法	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	認知行動療法	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	認知行動療法	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	第三世代の認知行動療法	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	認知行動療法的介入	講義	講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30				0	60
	思考・推論・創造の力			30				0	30
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	化粧とは何か	講義	(復習) 講義内容を理解する	30分
3・4	化粧の機能	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
5・6	化粧の知覚心理学	講義	(復習) 講義内容を理解する	30分
7・8	印象分析	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
9・10	色彩心理学	講義	(復習) 講義内容を理解する	30分
11・12	パーソナルカラー	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
13・14	化粧療法(1)	講義	(復習) 講義内容を理解する	30分
15	化粧療法(2)	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分





【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	0	60	0	30	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識			30		10		0	40
	思考・推論・創造の力			30				0	30
	コラボレーションとリーダーシップ					10		0	10
	発表力					10		0	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	メイクアップの基礎 (1)	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
3・4	メイクアップの基礎 (2)	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
5・6	高齢者への化粧品療法 (1) ハンドマッサージ	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
7・8	高齢者への化粧品療法 (2) ネイルケア	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
9・10	高齢者への化粧品療法 (3) スキンケア	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
11・12	高齢者への化粧品療法 (4) メイクアップ	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
13・14	高齢者への化粧品療法 (5) ペア実習	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分
15	高齢者への化粧品療法 (6) ペア実習	講義 一部実技	(復習) 講義内容を理解する	30分

<b>【科目名】</b> グループカウンセリング I		<b>【担当教員】</b> 姜 静愛
<b>【授業区分】</b> 専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b> 5-31-0055-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	c. kan@nur. ac. jp
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 月木金、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>		
(受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」等の科目を履修していると、本講義の理解が深まります。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。		
<b>【講義概要】</b>		
(目的) 本講義ではグループカウンセリングを理解する上での基礎知識となる対人相互作用に関するトピックについて講義する。当該科目と学位授与方針等との関連性; R-1、R-2		
(方法) 毎回の講義において必要な資料を配布し、パワーポイントを用いながら進行する。演習を多く取り入れる。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> さまざまな理論を援用しながら対人相互作用が形成される過程、機序について理解する。		
<b>【行動目標(SB0)】</b> 心理学的観点から、対人相互作用が形成される過程、機序について説明できる。 適切なコミュニケーションが取れる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 毎回の授業で資料を配布する。		
<b>【参考書】</b> ケアする人の対話スキルABCD 堀越 勝 (著)		
<b>【評価に関わる情報】</b>		
(評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60		40			100
評価指標	取り込む力・知識			40		20			60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	コミュニケーション基礎 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
3・4	コミュニケーション基礎 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
5・6	対話スキル 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
7・8	対話スキル 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
9・10	グループ心理療法 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
11・12	グループ心理療法 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
13・14	コミュニケーション実践	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
15	まとめ	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240

<b>【科目名】</b> グループカウンセリングⅡ		<b>【担当教員】</b> 姜 静愛	
<b>【授業区分】</b> 専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b> 5-31-0060-2	(メールアドレス)	
<b>【開講時期】</b> 前期	<b>【選択必修】</b> 選択	c. kan@nur. ac. jp	
<b>【単位数】</b> 1	<b>【コマ数】</b> 15	(オフィスアワー) 月木金、12:40~13:20	
<b>【注意事項】</b>			
(受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」等の科目を履修していると、本講義の理解が深まります。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却:他に支障がない限り返却します。			
<b>【講義概要】</b>			
(目的) 本講義では各心理療法における集団療法について演習も交えながら講義する。 当該科目と学位授与方針等との関連性; R-1、R-2			
(方法) 毎回の講義において必要な資料を配布し、パワーポイントを用いながら進行する。講義が中心となるが適宜演習を取り入れる。			
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> グループによる心理療法の効能と限界、また個人による心理療法との違いについて理解する。			
<b>【行動目標(SB0)】</b> グループによる心理療法の効能と限界、また個人による心理療法との違いについて説明できる。			
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 毎回の授業で資料を配布する。			
<b>【参考書】</b> 授業で紹介する。			
<b>【評価に関わる情報】</b>			
(評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席点は評価に含みません。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	構成的エンカウンター(1)	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
3・4	構成的エンカウンター(2)	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
5・6	ソーシャルスキル・トレーニング(1)	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
7・8	ソーシャルスキル・トレーニング(2)	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
9・10	アサーション・トレーニング	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
11・12	集団認知行動療法1	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
13・14	集団認知行動療法2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
15	まとめ	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240

<b>【科目名】</b>	動作法		<b>【担当教員】</b>	姜 静愛
<b>【授業区分】</b>	専門分野(リハビリテーション心理学)	<b>【授業コード】</b>	5-31-0065-2	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	c. kan@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 授業にて知らせる
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野で心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>身体を使った体験的な学習も行うので、動きやすい服装で受講してください。</p> <p>講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p> <p>小テストやレポートなどのフィードバックは、適宜行います。</p>				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<p>動作法の知識・技術を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができることを目的とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<p>毎回、講義資料を配布する。</p> <p>動作法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。</p>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
動作法の理論と活用の仕方を理解する。				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
動作法の学習成果を実践できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回、講義資料を配布する。				
<b>【参考書】</b>				
<p>成瀬悟策 『動作療法 全く新しい心理治療の理論と方法』 誠信書房</p> <p>大野清志・村田茂(編著) 『動作法ハンドブック』</p>				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p> <p>成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。</p> <p>出席点は評価に含みません。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			35	55				10	100
評価指標	取り込む力・知識		35	25					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション・動作法とはなにか	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
3-4	動作と動作法	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
5-6	動作と動作法2	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
7-8	動作療法におけるインテーク	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
9-10	主動感と動作感の調整・調和療法	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
11-12	動作療法のプロセス	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
13-14	動作療法における援助	講義	講義資料を使用して講義内容の予習・復習をする。 関連する文献を読む。	180分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	180分

【科目名】	リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年I		【担当教員】	中川 明仁、大矢 薫	
【授業区分】	専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	U52868		
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
【注意事項】	<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>リハビリテーション心理学専攻3年生対象の必修科目です。 3年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療・福祉・教育・司法・産業等の心理学関連領域の社会的な問題/課題について、常に興味をもっていてください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>3年次となり、各自の将来像をある程度自覚する必要があります。 進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 2)の場合は、①「公認心理師」を目指すコースと、②一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。</p>				
【講義概要】	<p>(目的)</p> <p>ゼミ活動を通じて、これまで学修してきたリハビリテーション心理学を各自の将来へ向けてどのように展開していくのか、一定のイメージを確立する。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-1, RP-2</p> <p>(方法)</p> <p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。 一例として、 ①各自が関心あるテーマを取り上げ、必要な情報を収集してまとめ、プレゼン発表する。 ②その後、メンバー全員で、そのテーマについてディスカッションを行う。</p>				
【一般教育目標(GIO)】	<p>心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事・職業はどのようなものがあるのかを知る。 「公認心理師」が活躍している領域を知る。 自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。</p>				
【行動目標(SB0)】	<p>①自身の関心のある事柄について、自分で情報・文献を検索することができる。 ②①について調査し、その結果をまとめ、自身の意見や気づきも含めて発表することができる。 ③文献検索等の情報集やメンバーとのディスカッションを通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力を身につける。 ④本科目を通して、現代の社会・人間が抱える課題に対して、心理学がいかに貢献できるのかをある程度イメージできる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】	各ゼミ担当教員の指示・助言による。				
【参考書】	各ゼミ担当教員の指示・助言による。				
【評価に関わる情報】	<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。 出席点は評価に含まれない。 尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10		10		30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	自己紹介とオリエンテーション 内容：互いに自己紹介をする。 今後のゼミの進め方について、指導教員も含め、 お互い意見を出し合い、ディスカッションし、決 める。			
3-6 一例	Aグループ 各自、関心のある事柄について、テーマを設定す る。各自で情報・文献を検索し、まとめる。それ を1人15分程度プレゼン発表する。その後、15分程 度質疑応答して、理解を深める。		各自、関心のある事柄について、 テーマを設定する。各自で情報・文 献を検索し、まとめる。	3-14で、 各人1回 の担当時 に180分程 度
7-10 一例	Bグループ 各自、関心のある事柄について、テーマを設定す る。各自で情報・文献を検索し、まとめる。それ を1人15分程度プレゼン発表する。その後、15分程 度質疑応答して、理解を深める。			
11-14 一例	Cグループ 各自、関心のある事柄について、テーマを設定す る。各自で情報・文献を検索し、まとめる。それ を1人15分程度プレゼン発表する。その後、15分程 度質疑応答して、理解を深める。			
15 一例	まとめ リハビリテーション心理学の社会への貢献をイ メージし、各自の気づきを述べる。			

<b>【科目名】</b>	心理測定法 I		<b>【担当教員】</b>	中川 明仁
<b>【授業区分】</b>	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	<b>【授業コード】</b>	2-14-0045-3	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性： S-1、R-2				
(方法)				
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法Ⅱに向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定を実践することで知識の定着を図る。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回の授業で資料を配布する				
<b>【参考書】</b>				
山田弘幸(編・著) / 言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」 / 医歯薬出版 / 定価 4,320円(税込) 市川伸一編著 / 新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」 / サイエンス社 / 定価 2,835円(税込)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。				

【科目名】	リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年Ⅰ		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	U52870	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】		(オフィスアワー) 平日 9:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>リハビリテーション心理学専攻4年生対象の必修科目です。  4年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。  保健医療・福祉・教育・司法・産業等の心理学関連領域の社会的な問題/課題について、常に興味をもっていてください。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>4年次となり、各自の将来像をある程度自覚し、進路を決定する必要があります。  進路は、1)学部で卒業して一般就職するコースと、2)大学院へ進学するコースの2つに大別されます。  1)の場合は、自身の能力と適性に合った職業に就くため、多種多様な業種の中から選択していくことになります。  2)の場合は、①「公認心理師」を目指すコースと、②一般心理学を深く研究するコースに分かれます。  ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年Ⅱ」を引き継ぎ、更に展開させていく。  「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年Ⅱ」とは異なる観点で、自らの進路・将来像をこれまで以上に明確にしていく。</p>				
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, A-2, A-3, RP-1, RP-2				
(方法)				
<p>各ゼミ毎に、ゼミ担当教員の指導の下、進め方(方法)を決定する。  一例として、  ①ボランティア活動を企画し、メンバーで具体的な計画を立案し、実行する。その後、気づき等を発表する。  ②関心あるテーマを取り上げ、グループで調査し、その結果を発表して、解決策を見出すべく全員でディスカッションを行う。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。  心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。  心理学に関連する仕事・職業はどのようなものがあるのかを知る。  「公認心理師」が活躍している領域を知る。  自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>①自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自身の意見や気づきも含めて発表することができる。  ②グループでのボランティア等の活動を通じて、チームでの協力・連携の姿勢を身につける。  ③ゼミ活動の実践を通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力と問題解決力を身につける。  ④本科目を通して、自身の進路を自分の意思である程度選択することができるようになる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
各ゼミ担当教員の指示・助言による。				
【参考書】				
各ゼミ担当教員の指示・助言による。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。  成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。  出席点は評価に含まれない。  尚、評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				20	40		40		100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10		20		30
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2 一例	自己紹介とオリエンテーション 内容：自己紹介。グループ分けの調整。 今後のゼミの進め方について、指導教員も含め、 お互い意見を出し合い、ディスカッションし、決める。			
3-6 一例	1)-1 ボランティア活動 各グループで、関心のあるボランティア活動について、 行動を立案し、実行する。		ボランティアの準備 60分 活動のまとめ 120分	3-6で、各グループ 180分程度
7-8 一例	1)-2 ボランティア活動の発表 1)-1で実践した成果をまとめる。それを1グループ 20分程度プレゼン発表する。その後、20分程度質疑 応答して、理解を深める。			
9-12 一例	2)-1 調査活動 各グループで関心のある簡単な調査が可能な事柄 について、テーマを設定する。グループで情報・ 文献を検索し、調査法を立案し、実行する。		調査の準備 60分 調査結果のまとめ 120分	9-12で、各グループ 180分程度
13-14 一例	2)-2 調査活動の発表 2)-1で実施した調査結果をまとめ、発表する。それを 1グループ20分程度プレゼン発表する。その後、 20分程度質疑応答して、理解を深める。			
15 一例	まとめ リハビリテーション心理学の社会への貢献をイ メージし、自身の将来像、夢を述べる。			